

許 免 權 版

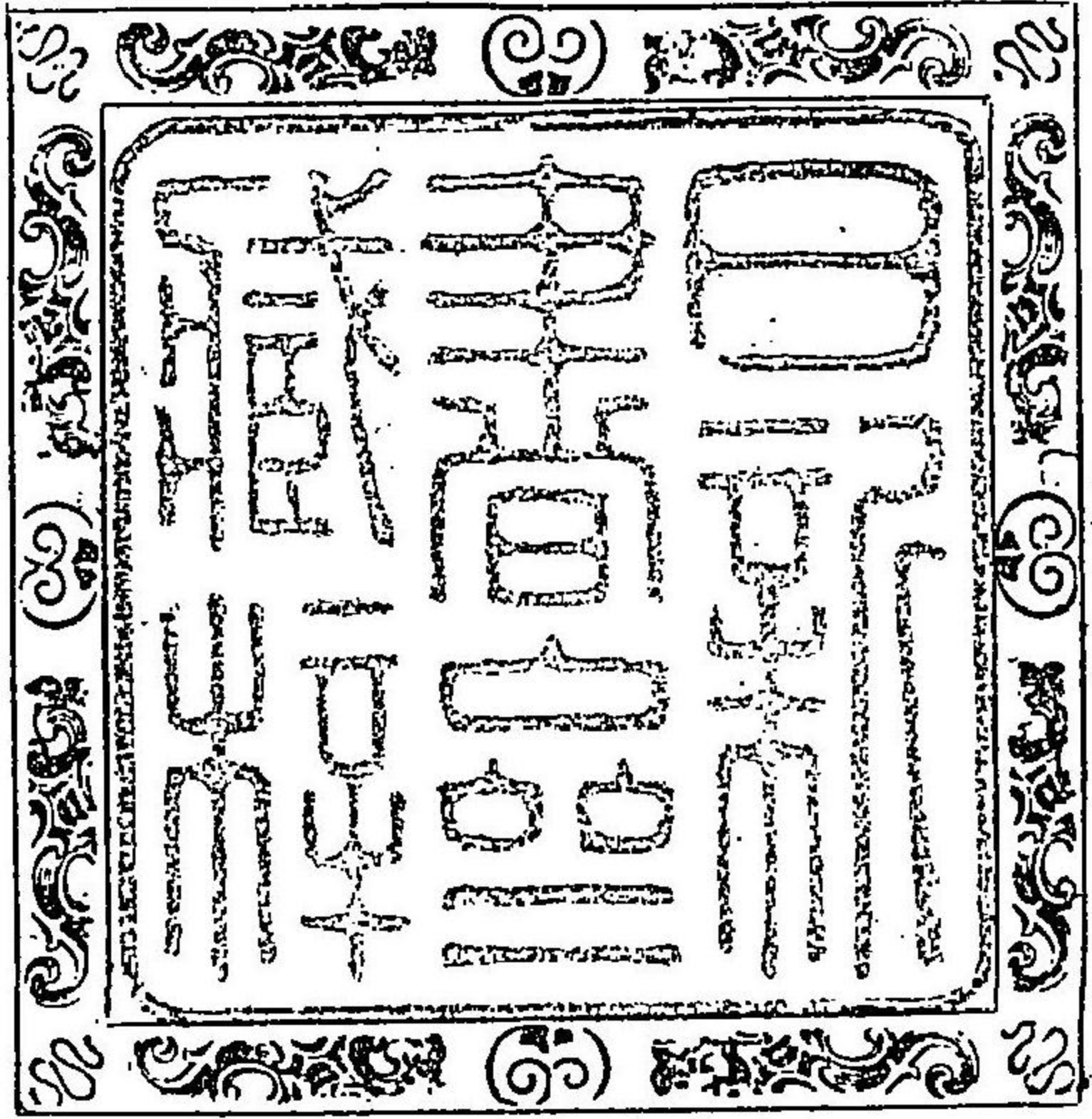
彈 寧 平 編 纂

甲 編 纂

現 六 事 規 則 類 纂

明 治 十 七 年
第 八 月 新 刊

日 新 書 局 發 行

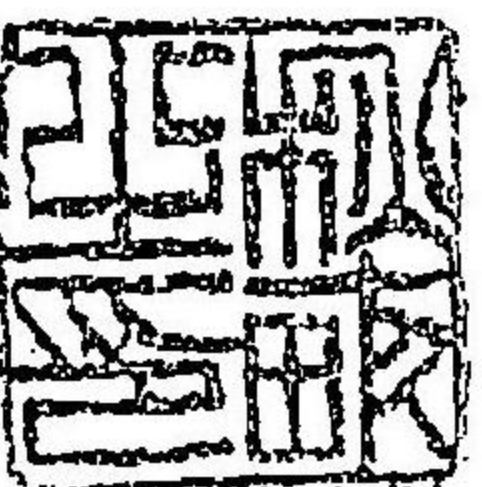


書者不可不讀
也讀而不可不
熟也熟則可

一於今
世主月

不家也

陸軍中將三好重臣



現行兵事規則類纂甲編

例言

一 本編は明治元年以來十六年七月迄太政官及陸海軍省ノ條例規則

中專ラ兵事課事務ニ關スル布告、布達、達、告示、等ヲ編纂ス

式ニ據リ宣布セラレザル官省ノ達、報告、錄事、照會、回答、鎮臺府縣ノ伺

指令ノ如キハ皆主務ノ省へ出願シ認可ヲ受ケテ之ヲ登載ス其認可

セラレシ官省ハ左ノ如シ

太政官 賞勳局 大藏省 陸軍省 海軍省

一 官報ノ内兵事ニ緊要ノ事項モ抄録シテ之ヲ併載ス

一 條例規則中廢止又ハ改正等ニ係リ現今施行セラレサルモノハ

令ノ如キモノ之ヲ載セス

一 條例規則中第何條第何項云々

例ハハ徵令ト徵兵事務條例ト
徵發令ト徵發事務條例トノ如キ

等アリテ彼是參

67103

○例言

○例言

觀セザレハ文意明瞭ナラザル處ハ各本條ヲ採録シテ細註ヲ加フ
一本編ハ浩瀚ナルヲ以テ全部ヲ折半シテ甲乙編ノ二冊ニ分ツ故ニ甲
編ニ遺漏セル條例規則ハ不日乙編ヲ刊行シテ完全ナラシムヘシ

明治十七年八月下浣

編者 識

行現 兵事規則類纂甲編

目次

前加款 兵事課ヲ被置

第一篇 陸軍省ノ部

第一類 陸軍恩給令

第一章 総則

第二章 恩給及ヒ増加

第三章 寡婦孤兒扶助料

第四章 服役年算則

第五章 從軍年算則

第六章 恩給支給順序

第七章 賑恤金

第八章 給助金

二 丁

四 丁

五 丁

八 丁

十 三 丁

十 六 丁

十 九 丁

二 十 丁

廿 二 丁

廿 三 丁

目次

一

第九章	恩給令ニ係ル追達	廿六丁
第二類	勳章年金	
第一章	年金渡方手續概則	廿八丁
第二章	勳章年金褫奪及停止取扱手續	三十五丁
第三類	陸軍武官婚姻法	
第一章	陸軍武官結婚條例	三十九丁
第二章	陸軍武官結婚家計保護金取扱概則	四十六丁
第四類	改正徵兵令	
第一章	總則	五十三丁
第二章	服役	五十四丁
第三章	免除及ハ猶豫	五十五丁
第四章	徵兵區及ハ抽籤	五十六丁

第五章	補充員及ハ豫備徵員	六十三丁
第六章	雜則	六十五丁
第七章	徵兵令改正ニ付種々ノ取扱規則	七十二丁
第八章	七軍管疆域	八十四丁
第五類	改正徵兵事務條例	
第一章	徵兵事務官及ハ其職掌	九十九丁
第二章	徵兵検査所及ハ徵兵署	百〇二丁
第三章	各自届出	百〇三丁
第四章	下調	百〇五丁
第五章	徵員配當	百〇九丁
第六章	検査準備	百一十丁
第七章	検査	百十二丁

第八章	抽籤準備	百十六丁
第九章	抽籤	百十八丁
第十章	簿冊表面調整	百十九丁
第十一章	現役兵編入順序	百二十三丁
第十二章	新兵入營前ノ扱	百二十四丁
第十三章	歸休歸省	百二十六丁
第十四章	補充員及ヒ豫備徵員	百二十八丁
第十五章	一年志願兵	百三十二丁
第十六章	臨時徵兵事務	百三十三丁
第十七章	雜則	百三十六丁
第十八章	附則	百四十六丁
第十九章	書式并諸表	百四十九丁

第六類 各種ノ兵卒

第一章	徵兵看護卒取扱手續	二百〇四丁
第二章	輜重輸卒概則	二百十四丁
第三章	陸軍軍馬局調馬卒概則	二百十九丁
第四章	士官學校戶山學校教導團喇叭卒概則	二百二十八丁
第五章	戶山學校体操卒監的卒概則	二百三十四丁
第六章	屯田兵志願者心得書	二百四十〇丁

第七類 下士

第一章	陸軍下士服役規則	二百五十一丁
第二章	陸軍下士文官志願手續書	二百五十八丁
	陸軍下士文官志願手續附錄	二百六十二丁
第三章	陸軍滿期下士文官採用規則	二百七十一丁

第四章 陸軍滿期下士文官採用細則

二百七十七丁

第八類 陸軍兵學校及生徒

第一章 陸軍大學校條例

二百九十〇丁

總則

全丁

職制

二百九十四丁

第二章 陸軍士官學校條例

二百九十八丁

總則

全丁

職制

三百〇五丁

召募ノ定則

三百十三丁

第三章 士官學校生徒召募規則

三百十九丁

士官生徒入學檢査格例

全丁

士官生徒入學志願者心得

三百二十一丁

士官生徒入學願書式

三百二十七丁

幼年生徒檢査格例

三百三十六丁

幼年生徒入學志願者心得

三百三十八丁

幼年生徒入學願書式

三百四十一丁

第四章 陸軍戶山學校條例

三百四十九丁

總則

全丁

職制

三百五十二丁

第五章 陸軍教導團條例

三百五十七丁

總則

全丁

職制

三百六十一丁

生徒召募ノ定則

三百六十三丁

第六章 陸軍教導團軍樂生徒召募規則

三百七十六丁

軍樂生徒檢査格例	全	丁
軍樂生徒入學志願者心得	三百七十八丁	
軍樂生徒入學願書式	三百八十〇丁	
第七章 教導團歩砲兩兵科生徒召募規則	三百八十六丁	
歩砲兩兵科生徒檢査格例	三百八十七丁	
歩砲兩兵科生徒入學志願者心得	三百八十八丁	
歩砲兩兵科生徒入學願書式	三百九十三丁	
第八章 陸軍々醫講習生假規則	三百九十九丁	
第九章 陸軍々醫講習生召募規則	四百十三丁	
第九類 徵發令	四百十八丁	
第一章 徵發事務條則	四百三十四丁	
以上		

勅諭

朕惟ルニ古昔郡縣ノ制全國ノ丁壯ヲ募リ軍團ヲ設ケ以テ國家ヲ保護ス固ヨリ兵農ノ分ナシ中世以降兵權武門ニ歸シ兵農始テ分レ遂ニ封建ノ治ヲ成ス戊辰ノ一新ハ實ニ千有餘年來ノ一大變革ナリ此際ニ當リ海陸兵制モ亦時ニ從ヒ宜ヲ制セザルベカラズ今本邦古昔ノ制ニ基キ海外各國ノ式ヲ斟酌シ全國募兵ノ法ヲ設ケ國家保護ノ基ヲ立ント欲ス汝百官有司厚ク朕カ意ヲ體シ普ク之ヲ全國ニ告諭セヨ

明治五壬申年十一月廿八日

現行兵事規則類纂甲編

○ 彈 舜 平 編 纂

○ 前加款 兵事課ヲ被置

○ 太政官ヨリ 藩省達 明治十五年十二月廿五日

戊辰以來民力ヲ休養シ根本ヲ培植シ偏ニ内政ノ急ヲ被 思食候儀ニ有之候處方今宇内ノ形勢ニ於テ陸海軍ノ整備ハ實ニ不得已之事宜ニ有之因テ此際時ニ措クノ宜キヲ酌定シ國家ノ長計ヲ誤ラサル様精々廟議ヲ竭スヘキ旨御沙汰候事 維新日淺ク民力未舒ノ際事宜不得已ノ急務ニ依リ別紙之通被 仰出候ニ就テハ深ク宸襟ヲ被爲惱候條此際各廳ニ於テ不急ノ庶務ヲ節略シ 聖旨貫徹候様可致此旨相達候事

○ 太政大臣ヨリ 各地方長官へ内達 明治十六年一月

兵役ハ國民ノ義務ニシテ平等畫一ニ之ヲ負擔セシムベキノ處頃日陸軍卿ヨリ差出候

府縣徴兵比較表ヲ熟閱スルニ徵集人員ノ多寡府縣ニヨリ大ニ差異有之右ハ兵備ノ基礎タル重大ノ事件ニシテ等閑ニ付ス可カラサル儀ニ候條各地方長官ニ於テ能ク徴兵ノ主旨ヲシテ實際ニ貫徹セシメ兵役ニ服スル者全國畫一ニ相成候様厚ク注意可致仍テ爲參考別紙相添此旨及内達候也 (別紙 省略)

○ 太政官第二號 府(札幌根室沖繩)ノ三縣ヲ除ク 達 明治十六年一月廿三日

陸海軍兵事ニ關スル事務取扱ノ爲メ自今兵事課ヲ置キ俸給トシテ年額金六百圓増加候條判任官適宜増員可致此旨相達候事

但本年度ノ儀ハ月割ヲ以テ大藏省ヨリ可受取事

第一編 陸軍省ノ部

第一類 陸軍恩給令

○太政官第三十七號 官官院 明治十六年 陸軍省 九月十一日

陸軍恩給令別冊ノ通改正候條此旨相達候事

但陸軍罷役俸並恤金令ハ廢止ス

別冊

陸軍恩給令

陸軍恩給令

第一章 總則

(目錄 省略)

第一條 陸軍恩給ハ陸軍諸種ノ勤勞ニ依リテ之ヲ給スル者ナリ其種類別テ左ノ五項トス

- 一 退職恩給
- 二 免除恩給
- 三 寡婦^{孤兒}扶助料
- 四 賑恤金
- 五 給助金

第二條 退職恩給免除恩給寡婦扶助料ハ本人ノ終身孤兒扶助料ハ男女共ニ二十歳ニ至ル迄之ヲ給シ賑恤金給助金ハ一時限リ之ヲ給ス

第三條 軍人ハ定限ノ年齢ニ達スレハ現役ヲ辭シテ恩給ヲ受クルヲ例トス其定限左

ノ如シ

會計監督 軍醫監 藥劑監

六十

憲兵大中佐 會計副監督 軍醫正 藥劑正 馬醫監

五十七

步騎砲工輜重兵大中佐 憲兵少佐 會計監督補

五十四

會計一等軍吏 一等軍醫 一等劑官 一等馬醫

步騎砲工輜重兵少佐 憲兵大尉 會計二等軍吏

五十一

二等軍醫 二等劑官 二等馬醫 砲工兵上等監護

步騎砲工輜重兵大尉 憲兵中少尉 會計三等軍吏

三等軍醫 三等劑官 三等馬醫 軍樂長 砲工兵

四十八

監護 砲兵監守 砲兵監査 諸工長 諸工下長

步騎砲工輜重兵中少尉 憲兵下士 會計書記

四十五

看護長 馬醫生 軍樂次長 軍樂手

步騎砲工輜重兵下士 憲兵卒 會計卒 看病卒 樂生 四十

步騎砲工輜重兵卒

三十五

第四條 軍人定限ノ年齢ニ達スト雖モ前途尙ホ任用ニ堪ヘ若シハ材能特拔又ハ老練者ヲ要スル職務ニ在ル者ハ仍ホ留任ヲ命スルコトヲ得但強テ現役ヲ辭スル者ハ此限ニアラス

第五條 上長官士官准士官未タ定限ノ年齢ニ達セスト雖モ服役實期十一年以上ノ者ニシテ服役ニ堪ヘサルヲ認メタル時ハ士官以上ハ陸軍卿准士官ハ其所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退キ恩給ヲ願ハシムルコトアル可シ

第六條 恩給ハ公權剝奪ノ時ハ全ク之ヲ止メ左ノ各填ニ該ル時ハ其時間ノミ之ヲ停ム

- 一 公權停止ノ時
- 二 事故アリテ日本人タルノ分限ヲ失フ時

三 政府ノ許可ナクシテ日本國外ニ出タル時

第七條 恩給ヲ受ケタル者再ヒ現役ニ就キ若クハ文官ニ任シ俸給ヲ受ケル時ハ其間該恩給ヲ停ム但其負傷増加恩給ハ仍ホ之ヲ給ス

第八條 寡婦孤扶助料ハ當該軍人死歿ノ日戰地等ニテ死歿ノ者ハ陸軍官憲ヨリ報告ノ日ヨリ一箇年間額出サル者ハ其權利消絶ス

恩給及ヒ扶助料ハ一箇年以上其金額ノ受領ヲ怠ル時ハ其怠リタル年限ノ金額ハ之ヲ給セス

第九條 恩給及扶助料ノ金額計算ニ就キ違算アリト思惟スル時ハ初メテ金圓ヲ受領セシ日ヨリ三箇月以内ニ管轄地方廳ヲ經テ陸軍卿ニ上申ス可シ若シ此期限ヲ過クル時ハ之ヲ受理セス

第二章 恩給及ヒ増加

第十條 退職恩給ハ准士官以上服役實期十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ又ハ疾

病ニ罹リ查問會議ノ處決若クハ陸軍卿ノ諭旨ニ依リ退職スル者ニ之ヲ給ス

戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メニ傷疾ヲ受ケ一肢以上ノ用ヲ失ヒ或ハ之ヲ失フニ等シト認ムル者又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ顧ミルコト能ハスシテ非常ノ勞動及ヒ困苦ヲ忍ビ勤務ヲ從事シ爲メニ健康ヲ妨害シ全ク職務ニ堪ヘサルニ至リ其証據明亮ニシテ退職スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス

其退職恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト甲號表面ノ如シ但十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ其十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十一條 免除恩給ハ下士及ヒ卒服役實期十一年以上ニシテ定限ノ年齢ニ達シ或ハ服役滿期トナリ或ハ疾病ノ爲メ免官若クハ免役スル者ニ之ヲ給ス

前條第二項ニ掲グルカ如キ傷滅疾病ヲ受ケ永久ニ健康ヲ妨害シ全ク兵役ニ堪ヘス其證據明亮ニシテ免官若クハ免役スル者ハ服役實期十一年未滿ト雖モ亦之ヲ給ス

○恩給令

恩給及増加

十〇

其免除恩給ノ額ハ十一年ヨリ三十九年ニ至リ年々差等アルコト乙號表面ノ如シ但
十一年未滿者ニ給ス可キ恩給ハ十一年ニ等シキ額ニ依ル

第十二條 准士官以上傷痍ヲ受クルト雖モ尙ホ奉職セシメ後日退職スル者ハ現官等
ニ依リ恩給ヲ給ス但負傷増加恩給ハ負傷當時ノ官等ニ依リ之ヲ給ス

第十三條 傷痍疾病ニ起因シ恩給ヲ願出ル者ハ其原因症候トモ詳細之ヲ開陳ス可シ
第十四條 傷痍疾病ヲ受ケシ事故及ヒ其原因ハ見證證書又ハ公文若クハ査問會議口

供書ノ寫ヲ以テ之ヲ證明ス可シ

第十五條 傷痍疾病不治ノ狀ハ陸軍病院長及ヒ主任醫官地方病院ニ於テ治療ヲ受ケシ者ハ其院長并ニ主任醫師ノ診斷

證書ヲ以テ之ヲ證ス可シ

其診斷證書ハ傷痍疾病ノ原因症候及ヒ其治療方法ヲ述ヘ以テ不治ノ狀ヲ詳悉ス可

シ
病院ニ就キ治療ヲ受ケタル者ト雖モ陸軍病院長若クハ地方病院長ノ診斷書ヲ要ス

第十六條 傷痍疾病不治ノ狀ハ軍醫若クハ地方醫師ノ證書ニ依ルト雖モ其軍務ニ堪
ヘサルヤ否ヤハ當該所管ニ於テ檢査判定シ尙ホ監軍部長ノ審査ヲ經テ之ヲ陸軍卿
ニ移ス可シ陸軍卿ハ更ニ軍醫本部ニ下シテ覆數セシメ以テ決定ス

第十七條 恩給ハ軍人ノ現官階ニ依リ之ヲ給ス但下士以上其官階ニ進ミ未タ進級條
例ノ停年最下限ノ半ニ至ラスシテ退職免官ヲ願フ時ハ前官ニ準シテ之ヲ給ス其戰
闘若クハ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ或ハ戰地ニ於テ受ケタル疾病ノ爲メ恩給ヲ給スル
ハ此限ニアラス

第十八條 准士官以上退職恩給ヲ願フ時所管長官ハ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ニ於
テ直ニ休暇ヲ命ス下士卒免除恩給ヲ願フ時亦該長官同上ノ日ニ於テ直ニ免官若ク
ハ免役ス可シ

第十九條 戰闘及ヒ戰時平時ニ拘ハラズ公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ左ノ各項ニ該ル者ハ
恩給ノ外更ニ丙號表面ノ金額ヲ加給ス但公務ノ爲メ疾病ニ罹リ遂ニ一肢以上ノ用

○恩給令

恩給及増加

十一

ヲ失フニ等シキ不治ノ症トナル者モ亦本條ニ準ス

- 一 兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者
- 二 前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者
- 三 一肢ヲ亡シ或ハ全ク二肢ノ用ヲ失フニ至ル者
- 四 前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者
- 五 全ク一肢ノ用ヲ失フ者
- 六 前項ニ等シキ傷痕ヲ受ケシ者

第二十條 傷痕疾病ニ依リテ恩給ヲ受ケ引續キ重症ニ趨キ或ハ現役ヲ離レシ後重症ニ趨キタル者左項ノ期限内ニ願出ル時ハ検査ノ上事實相違ナキニ於テハ更ニ恩給ヲ給シ或ハ負傷増加恩給ヲ給ス可シ但更ニ恩給ヲ願フハ現役ヲ離ル、ノ際其傷痕ノ爲メ服役シ難キ確定ヲ得タル者ニ限ル

- 一 一肢ノ用ヲ失ヒ或ハ一肢ノ用ヲ失フニ等シキ者ハ現役ヲ離レシ日ヨリ二箇年

二 一肢ヲ亡シ或ハ二肢ノ用ヲ失ヒ或ハ兩眼ヲ盲シ或ハ二肢ヲ亡スル者現役ヲ離レシ日ヨリ三箇年

第三章 寡婦孤兒扶助料

第二十一條 寡婦扶助料ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス其給額ハ當該軍人ノ官階ト

死歿ノ緣故トニ依リテ差アリ

- 一 戰闘或ハ公務ノ爲メ死歿シ或ハ之ニ依リテ受ケタル傷痕ニ原因シテ死歿シ又ハ戰地ニ於テ流行病ニ罹リ或ハ健康ニ有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルヲ能ハスシテ非常ノ勞動及ヒ困苦ヲ忍ビ勤務ニ從事シ爲メニ發病死歿シ又ハ平時當務ニ依リ傳染病者ニ接シ該病毒ニ感染シ死歿シタル軍人ノ寡婦
- 二 退職若シハ免除恩給ヲ受ケタル後或ハ之ヲ受クベキ權ヲ有シテ死歿シタル軍人ノ寡婦

其扶助料ノ額第一項ニ該ル者ハ丁號表面ニ依リ第二項ニ該ル者ハ戊號表面ニ依ル

第二十二條 戰闘及ヒ公務ノ爲メ傷痕ヲ受クルト雖モ其傷痕ニ原因セサル他病ニテ死歿シタル軍人ノ寡婦ハ救助料ヲ給セス

第二十三條 戰闘中踪跡ヲ失フ者其死亡公務ニ原因セシニ相違ナキヲ確認スル時ハ第二十一條第一項ヲ適用ス

第二十四條 寡婦ハ陸軍簿籍ニ登記セシ者ニシテ其夫ノ現役ヲ去ルノ時ヨリ一箇年以前ニ嫁シタル者ニ限ル可シ但前妻若クハ現時ノ妻ニ生レタル兒子アレハ嫁時年月ノ查覈ヲ要セス又戰死或ハ傷痕疾病ニ原因シテ死シタル軍人ノ寡婦ハ嫁時ノ年月ニ關セズ負傷又ハ發病前ニ婚配セル者ニ限ル

第二十五條 寡婦其家ヲ去リ若クハ再婚スル時ハ扶助料ヲ受クルノ權消絶ス

第二十六條 寡婦死去シ或ハ前條ノ事故アリテ扶助料ヲ受クルノ權消絶スル時ハ當該軍人ノ孤子嫡子庶子養子ヲ論セス戸籍ニ登記セシ者但養子ハ死傷前ニシテ其家名繼襲ノ者ニ限ルノ寡婦ト等シキ扶助料其他ノ者ニハ其額三分ノ二ヲ給ス又當該軍人ノ死シタル時

孤兒ノ母在ラサル者ハ直ニ其孤兒ニ給ス

第二十七條 孤兒扶助料ハ數子アル時ハ其年長ナル者ニ給シ權利消絶ノ期ニ至レハ順次年少者ニ及フ但二十歳未滿ト雖モ官署ニ奉職シ俸給ヲ受ケ或ハ其戸籍ヲ去リ或ハ男女共ニ嫁娶シタル時ハ其權消絶ス

第二十八條 扶助料ヲ受クル者禁錮以上ノ刑ニ處セラル、時ハ之ヲ止メ更ニ其轉給ヲ受ク可キ者ニ之ヲ給ス

第二十九條 軍人死歿シ扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒ナク又ハ扶助料ヲ受クル寡婦再婚若クハ復籍シテ孤兒ナク尙ホ從來死者ニ依リテ生活セル父母又ハ祖父母アリテ他ニ之ヲ奉養スルノ子孫ナキ時ハ其情狀ニ依リ寡婦ニ相當セル扶助料三分ノ二ヲ終身給スルコトアル可シ

其扶助料ハ父母祖父母共ニ存在スル時ハ先ツ之ヲ父ニ給シ其父死歿若クハ權利消絶スルコトアレハ轉シテ之ヲ母ニ給ス以下其母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ順次此

例ニ依リ之ヲ轉給ス可シ但父及ヒ祖父ハ年齡五十歳以上其未滿ハ癩疾又ハ不具ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者又母及ヒ祖母ハ夫ナキ者ニシテ且孰レモ軍人死歿ノ際年齡五十歳以上ニシテ其戸籍ニ在ル者ニ限ル

第三十條 扶助料ヲ仰カントスル時ハ本人主名ヲ以テ親族二名及ヒ後見人アレハ其後見人若シ親族ナキ時ハ同郷ノ戸主二名連署シ其郡區長戸長ノ與印セル願書ヲ以テ之ヲ地方廳ニ呈ス可シ

其夫若クハ父戰死其他公務ノ爲メ直ニ死亡セシ者ハ見證書若クハ公文ノ内其一ヲ證據ニ供シ其傷痍疾病ニ基ク者ハ該書類ノ外尙ホ軍醫若クハ地方醫師ノ診斷証書ヲ證據ニ供ス可シ但地方醫師ノ診斷ヲ受ケタル時ハ尙ホ地方官吏ノ檢視證書ヲ添附シ死歿ノ原因ヲ證明ス可シ

第四章 服役年算則

第三十一條 服役年ノ始期及ヒ終期ノ例ハ左ノ各項ニ依ル可シ

一 明治四年八月ヲ以テ始期トス故ニ其以前ヨリ勤仕ノ者ト雖モ總テ同月ヲ以テ始トス

但シ明治四年八月以前ヨリ勤仕シタル者ハ明治四年七月ノ現官等ニ對スル俸給ノ半額ヲ以テ奉職年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スルノ金額ヲ以テ恩給支給ノ際別ニ一時賜金トシテ給與ス

二 下士以上ハ其初任當日ヨリ起算ス

三 徵兵ハ入營初日即チ毎年四月二十日ヨリ起算ス

四 壯兵其他諸種ノ方法ヲ以テ軍籍ニ入リタル者ハ其就役ノ當日ヨリ起算ス

五 上長官士官准士官ハ退職恩給ノ願書該長官ヨリ陸軍卿ニ呈スル進達書ノ日ヲ以テ終期トス

六 下士卒ハ免官免役ノ日ヲ以テ終期トス

第三十二條 十七歳未滿ハ恩給服役年ノ計算ニ算入セス

士官以上待命及ヒ非職中ノ月日ハ服役實期ニ算入ス但非職中地方病院學校及ヒ其
他ノ事業ニ從事シ其給料ヲ受ケ非職俸ヲ給セサル時間ハ之ヲ除算ス

第三十三條 海軍軍人轉シテ陸軍軍人トナル者ハ海軍服務ノ年月ヲ通算ス又文官轉
シテ陸軍軍人トナリタル者並ニ陸軍軍人ノ現役ニ在ラスシテ文官ヲ兼任シ文官ノ
俸給ヲ受クル者恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄ハ其文官奉仕中ノ年月ハ十六箇月ヲ以
テ一年トシ之ヲ通算ス

第三十四條 豫備軍後備ニ在ルノ月日ハ服役實期ニ算セスト雖モ復習ノ外現役ニ徵
集スルコトアル時ハ前後ノ現役ヲ通算ス

第三十五條 退職免役ノ後再ヒ現役ニ就ク者ハ前後ノ現役ヲ通算ス
第三十六條 逃亡ノ者其逃亡以前ノ現役ハ其歸營以後ノ現役ニ通算ス
第三十七條 處刑中ノ日數ハ現役年數中ヨリ除算ス
第三十八條 戰時虜獲ニ遭ヒ俘囚トナリタル月日ハ猶ホ平時現役ニ在ルノ同シク之

ヲ算ス

第五章 從軍年算則

第三十九條 從軍年ハ服役實期外ノ年月ト爲シ之ヲ其服役年數ニ加算スル者トス但
其服役實期十一年未滿ニシテ退身スル者ニハ之ヲ加算セス

第四十條 從軍年加算法ハ左ノ各項ニ依ル可シ

- 一 日本國外ノ戰地ニ於テ服役スル時ハ二箇年ヲ増加ス
- 二 出征軍ニ編入セラレ或ハ合圍若クハ臨戰地境內ニ於テ服役セシ時又戰時平時
ヲ論セス日本國外ノ地ニ於テ鎮戍ノ軍隊ニ在リシ時及ヒ海戰ニ當リ其戰中ニ
在リシ時ハ一箇年ヲ増加ス
- 三 海戰ニ當リ海岸防禦ニ從事セシ時ハ半箇年ヲ増加ス

第四十一條 出征軍ノ定メニアラスシテ一時出兵ノ時雖モ出征軍ト視做ス可キ場
合ニ於テハ陸軍卿上請シテ從軍年ニ算入スルコトヲ決定ス

第四十二條 從軍年ヲ算スルノ法ハ十二箇月間數回ノ戰役ニ從フト雖モ重複シテ之ヲ算セス但其一年以上ニ跨リ十二箇月ニ餘ル所ノ分數ハ前條ニ依リ之ヲ計算ス

第六章 恩給支給順序

第四十三條 恩給ノ願書ハ所管長官ヨリ檢閱監軍部長ヲ經テ陸軍卿ニ呈シ陸軍卿之ヲ太政官ニ上申ス

寡婦^孤扶助料ノ願書ハ居住地地方廳ヨリ內務卿ニ呈シ內務卿之ヲ陸軍卿ニ移シ陸軍卿ヨリ太政官ニ上申ス

第四十四條 太政官ニ於テハ之ヲ審査シタル後恩給許可令及ヒ恩給登錄寫帖ヲ內務大藏陸軍三卿ニ下シ內務卿ヨリ管轄地方廳ヲ經テ之ヲ本人ニ下シ依テ以テ年々金圓受領ノ証トナサシム
恩給登錄寫帖ヲ下付スルノ前ニ於テ陸軍卿ハ其恩給ヲ受ク可キ本人ニ計算書ヲ下シ以テ其算則ヲ示ス

第四十五條 退職及ヒ免除恩給并ニ扶助料下賜ノ始期ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 准士官以上ハ計算書日附ノ翌日
- 二 下士卒ハ免官免役ノ翌日
- 三 寡婦^孤扶助料ハ當該軍人死去ノ翌日

第四十六條 恩給及ヒ扶助料ハ一月四月七月十月ニ前三箇月分ノ金額ヲ大藏省ヨリ本人所在ノ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス但其交付者ハ恩給登錄寫帖ヲ披閱ノ上戸長ノ証セル本人生存書及ヒ金額受領證書ト引替ニ其金額ヲ交付ス

恩給若クハ扶助料ヲ受クル者其金額受領ノ地ヲ轉セントスルハ金額交付期月ノ三箇月前ニ其所在ノ地方廳ニ願出可シ若シ期日ヲ過クル者ハ仍ホ元所在地ニ於テ之ヲ交付ス

第四十七條 恩給若クハ扶助料ヲ受クル者權利消絶ニ屬スル時ハ地方廳其恩給登錄寫帖ヲ収メテ內務省ニ出シ內務省ハ之ヲ太政官ニ還付シ其旨ヲ大藏省陸軍省ニ報

告ス但扶助料移轉ス可キ者アル時ハ恩給登錄寫帖ヲ収メス更ニ扶助料請願ノ證ト爲サシム

第四十八條 恩給登錄寫帖ヲ受領セシ者盜難水火災等ノ爲メ之ヲ失亡スル時ハ速ニ其旨ヲ届出可シ此場合ニ於テハ内務卿ヨリ證明書ヲ下付ス

第七章 振恤金

第四十九條 振恤金ハ左ノ項目ニ該ル者ニ之ヲ給ス

- 一 下士卒戦闘或ハ戦地ニ於テ公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ服役ニ堪ヘス免官除隊スル雖モ第十九條末項ヨリ輕傷ニシテ免除恩給ヲ受ケサザル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第五項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス
- 二 下士卒平時公務ノ爲メ傷痍疾病ヲ受ケ前項ト等シキ者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス十箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

三 下士卒服役實期滿五年以上十一年未滿ノ者公務ノ故ニアラスシテ傷痍疾病ヲ受ケ全ク服役ニ堪ヘス其營業ヲ妨クルニ至ル者及ヒ其五年未滿ト雖モ一肢以上ノ切斷ヲ受ケ若クハ兩眼ヲ盲スル者ハ其官階ニ應スル負傷增加表第六項ノ一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

四 扶助料ヲ受ク可キ寡婦孤兒又ハ父母祖父母ナクシテ從來死者ニ依リ生活セル二十歳未滿又ハ二十歳以上ト雖モ廢疾ノ兄弟姉妹アリテ之ヲ救育スルノ親族ナキ者ハ其寡婦ニ相當セル扶助料一箇年分ヨリ少カラス五箇年分ヨリ多カラサル金額ヲ給ス

第五十條 前條ノ振恤金ハ本人ノ情願又ハ所管長官ノ申請ニ依リ陸軍卿之ヲ詮議シ太政官特別ノ裁可ヲ以テ之ヲ下賜ス其金額ハ大藏省ヨリ地方廳ヲ經テ之ヲ下付ス

第八章 給助金

第五十一條 給助金ハ下士以上現役中死歿シ又ハ五年以上勤績キノ後罷役或ハ免官

○恩給令

救助金

トナリ恩給若クハ扶助料ヲ賜ハラサル者ニ之ヲ給ス其給額ハ己號表面ニ依ル但懲戒ノ爲メ免官或ハ刑名宣告ニ至ラサルモ不正ノ所業確認ノ者ニハ之ヲ給セス
陸軍恩給金額表

陸軍恩給令

甲號 退職恩給表

三十二年	二千二百五十四円	六百二十四円	四百七十四円	千二百五十四円	八百一十円	六百四十五円	四百五十五円	三百三十五円	三百七十五円	三百四十三円	二百五十五円
三十三年	二千五百十円	六百四十四円	千四百三十五円	千二百五十五円	八百二十円	六百五十五円	四百六十円	三百七十五円	三百五十五円	三百四十六円	二百五十五円
三十四年	二千七百五十四円	六百六十四円	千四百五十五円	千三百七十五円	八百三十円	六百六十五円	四百七十五円	三百八十五円	三百六十五円	三百五十九円	二百五十五円
三十五年	二千九百八十四円	六百八十四円	千四百七十五円	千五百一十円	八百四十円	六百七十五円	四百八十五円	三百九十五円	三百七十五円	三百六十二円	二百五十五円
三十六年	三千二百三十四円	七百四十四円	千四百八十五円	千五百五十五円	八百五十円	六百八十五円	四百九十五円	四百零五円	三百八十五円	三百七十五円	二百五十五円
三十七年	三千四百八十四円	七百六十四円	千五百五十五円	千七百七十五円	八百六十円	六百九十五円	五百零五円	四百一十五円	三百九十五円	三百八十五円	二百五十五円
三十八年	三千七百三十四円	七百八十四円	千六百五十五円	千八百七十五円	八百七十円	七百零五円	五百一十五円	四百二十五円	四百零五円	三百九十五円	二百五十五円
三十九年	三千九百八十四円	八百零四円	千七百五十五円	千二百五十五円	八百八十円	七百一十五円	五百二十五円	四百三十五円	四百一十五円	四百零五円	二百五十五円
四十年	四千二百三十四円	八百二十四円	千八百五十五円	千七百五十五円	八百九十円	七百三十五円	五百四十五円	四百五十五円	四百三十五円	四百二十七円	二百五十五円

甲號 退職恩給表

年數	官	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十
十一年	千五百四十	千二百四十	千五百五十	千七百五十	千九百五十	千四百五十	千三百	千二百二十五	千八百八十	千五百五十	千九百五十
十二年	千五百五十四	千二百五十四	千五百六十四	千七百七十四	千九百九十四	千四百六十四	千三百五十四	千二百七十四	千八百九十四	千五百六十四	千九百九十四
十三年	千五百六十四	千二百六十四	千五百七十四	千七百八十四	千一萬零十四	千四百七十四	千三百六十四	千二百八十四	千九百零四	千五百七十四	千一萬零十四
十四年	千五百七十四	千二百七十四	千五百八十四	千七百九十四	千一萬一十四	千四百八十四	千三百七十四	千二百九十四	千九百一十四	千五百八十四	千一萬一十四
十五年	千五百八十四	千二百八十四	千五百九十四	千八百零四	千一萬二十四	千四百九十四	千三百八十四	千三百零四	千九百二十四	千五百九十四	千一萬二十四
十六年	千五百九十四	千二百九十四	千六百萬零四	千八百一十四	千一萬三十四	千五百零四	千三百九十四	千三百一十四	千九百三十四	千六百萬零四	千一萬三十四
十七年	千六百零四	千三百零四	千六百一十四	千八百二十四	千一萬四十四	千五百一十四	千四百零四	千三百二十四	千九百四十四	千六百一十四	千一萬四十四
十八年	千六百一十四	千三百一十四	千六百二十四	千八百三十四	千一萬五十四	千五百二十四	千四百一十四	千三百三十四	千九百五十四	千六百二十四	千一萬五十四
十九年	千六百二十四	千三百二十四	千六百三十四	千八百四十四	千一萬六十四	千五百三十四	千四百二十四	千三百四十四	千九百六十四	千六百三十四	千一萬六十四
二十年	千六百三十四	千三百三十四	千六百四十四	千八百五十四	千一萬七十四	千五百四十四	千四百三十四	千三百五十四	千九百七十四	千六百四十四	千一萬七十四
二十一年	千六百四十四	千三百四十四	千六百五十四	千八百六十四	千一萬八十四	千五百五十四	千四百四十四	千三百六十四	千九百八十四	千六百五十四	千一萬八十四
二十二年	千六百五十四	千三百五十四	千六百六十四	千八百七十四	千一萬九十四	千五百六十四	千四百五十四	千三百七十四	千九百九十四	千六百六十四	千一萬九十四
二十三年	千六百六十四	千三百六十四	千六百七十四	千八百八十四	千二萬零四	千五百七十四	千四百六十四	千三百八十四	千一萬零四	千六百七十四	千二萬零四
二十四年	千六百七十四	千三百七十四	千六百八十四	千八百九十四	千二萬一十四	千五百八十四	千四百七十四	千三百九十四	千一萬一十四	千六百八十四	千二萬一十四
二十五年	千六百八十四	千三百八十四	千六百九十四	千九百零四	千二萬二十四	千五百九十四	千四百八十四	千四百零四	千一萬二十四	千六百九十四	千二萬二十四
二十六年	千六百九十四	千三百九十四	千七百萬零四	千九百一十四	千二萬三十四	千六百萬零四	千四百九十四	千四百一十四	千一萬三十四	千七百萬零四	千二萬三十四
二十七年	千七百萬零四	千四百零四	千七百一十四	千九百二十四	千二萬四十四	千七百一十四	千五百零四	千四百二十四	千一萬四十四	千七百萬零四	千二萬四十四
二十八年	千七百一十四	千四百一十四	千七百二十四	千九百三十四	千二萬五十四	千七百二十四	千五百一十四	千四百三十四	千一萬五十四	千七百二十四	千二萬五十四
二十九年	千七百二十四	千四百二十四	千七百三十四	千九百四十四	千二萬六十四	千七百三十四	千五百二十四	千四百四十四	千一萬六十四	千七百三十四	千二萬六十四
三十年	千七百三十四	千四百三十四	千七百四十四	千九百五十四	千二萬七十四	千七百四十四	千五百三十四	千四百五十四	千一萬七十四	千七百四十四	千二萬七十四
三十一年	千七百四十四	千四百四十四	千七百五十四	千九百六十四	千二萬八十四	千七百五十四	千五百四十四	千四百六十四	千一萬八十四	千七百五十四	千二萬八十四
三十二年	千七百五十四	千四百五十四	千七百六十四	千九百七十四	千二萬九十四	千七百六十四	千五百五十四	千四百七十四	千一萬九十四	千七百六十四	千二萬九十四
三十三年	千七百六十四	千四百六十四	千七百七十四	千九百八十四	千三萬零四	千七百七十四	千五百六十四	千四百八十四	千二萬零四	千七百七十四	千三萬零四
三十四年	千七百七十四	千四百七十四	千七百八十四	千九百九十四	千三萬一十四	千七百八十四	千五百七十四	千四百九十四	千二萬一十四	千七百八十四	千三萬一十四
三十五年	千七百八十四	千四百八十四	千七百九十四	千一萬零四	千三萬二十四	千七百九十四	千五百八十四	千五百零四	千二萬二十四	千七百九十四	千三萬二十四
三十六年	千七百九十四	千四百九十四	千八百萬零四	千一萬一十四	千三萬三十四	千八百萬零四	千五百九十四	千五百一十四	千二萬三十四	千八百萬零四	千三萬三十四
三十七年	千八百萬零四	千五百零四	千八百一十四	千一萬二十四	千三萬四十四	千八百一十四	千六百零四	千五百二十四	千二萬四十四	千八百一十四	千三萬四十四
三十八年	千八百一十四	千五百一十四	千八百二十四	千一萬三十四	千三萬五十四	千八百二十四	千六百一十四	千五百三十四	千二萬五十四	千八百二十四	千三萬五十四
三十九年	千八百二十四	千五百二十四	千八百三十四	千一萬四十四	千三萬六十四	千八百三十四	千六百二十四	千五百四十四	千二萬六十四	千八百三十四	千三萬六十四
四十年	千八百三十四	千五百三十四	千八百四十四	千一萬五十四	千三萬七十四	千八百四十四	千六百三十四	千五百五十四	千二萬七十四	千八百四十四	千三萬七十四

乙號 免除恩給表

年數	官等	十	十一	十二	十三	卒
十一年	一級	六十圓	五十四圓	四十八圓	三十六圓	
十二年	二級	七十五圓	六十七圓	六十圓	四十五圓	
十三年	三級	九十圓	八十一圓	七十二圓	五十四圓	
十四年	四級	百二十圓	百八圓	九十六圓	七十二圓	
十五年	五級	百五圓	九十四圓	八十四圓	六十三圓	
十六年	五級	百五圓	九十四圓	八十四圓	六十三圓	
十七年	五級	百五圓	九十四圓	八十四圓	六十三圓	
十八年	五級	百五圓	九十四圓	八十四圓	六十三圓	
十九年	五級	百五圓	九十四圓	八十四圓	六十三圓	
二十年	五級	百五圓	九十四圓	八十四圓	六十三圓	

丙號 負傷增加恩給表

項	一	二	三	四	五	六
項一	千五百圓	八百四十圓	七百五十圓	五百五十圓	四百二十圓	三百十五圓
項二	九百圓	七百二十圓	六百三十圓	四百五十圓	三百六十圓	二百七十圓
項三	七百五十圓	六百圓	五百十圓	三百三十圓	二百七十圓	二百十圓
項四	六百圓	四百八十圓	四百二十圓	二百四十圓	二百十圓	九十圓
項五	四百五十圓	三百六十圓	三百十五圓	二百八十圓	二百十圓	九十圓
項六	三百圓	二百四十圓	二百十圓	九十圓	六十圓	五十圓

丁號 戰鬪及公務ニ因リ死亡ノ寡婦(孤兒)扶助料表

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	卒
千	八百圓	七百圓	六百圓	五百圓	四百圓	三百圓	二百圓	一百五十圓	一百圓	五十圓	四十圓	三十圓	

戊號 寡婦孤兒扶助料表

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	卒
五百圓	四百圓	三百五十圓	三百五十圓	二百圓	一百五十圓	一百圓	七十五圓	六十圓	五十圓	三十五圓	三十五圓	二十圓	十五圓

己號 給助金表

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	卒
千五百圓	千二百圓	千五百圓	千七百五十圓	千六百圓	千四百五十圓	千三百圓	千二百五十圓	千一百五十圓	千八十圓	千一百五十圓	千六十圓	千五十四圓	千四十八圓

丁 號 戦鬪及公務ニ因リ死亡ノ寡婦(孤兒)扶助料表

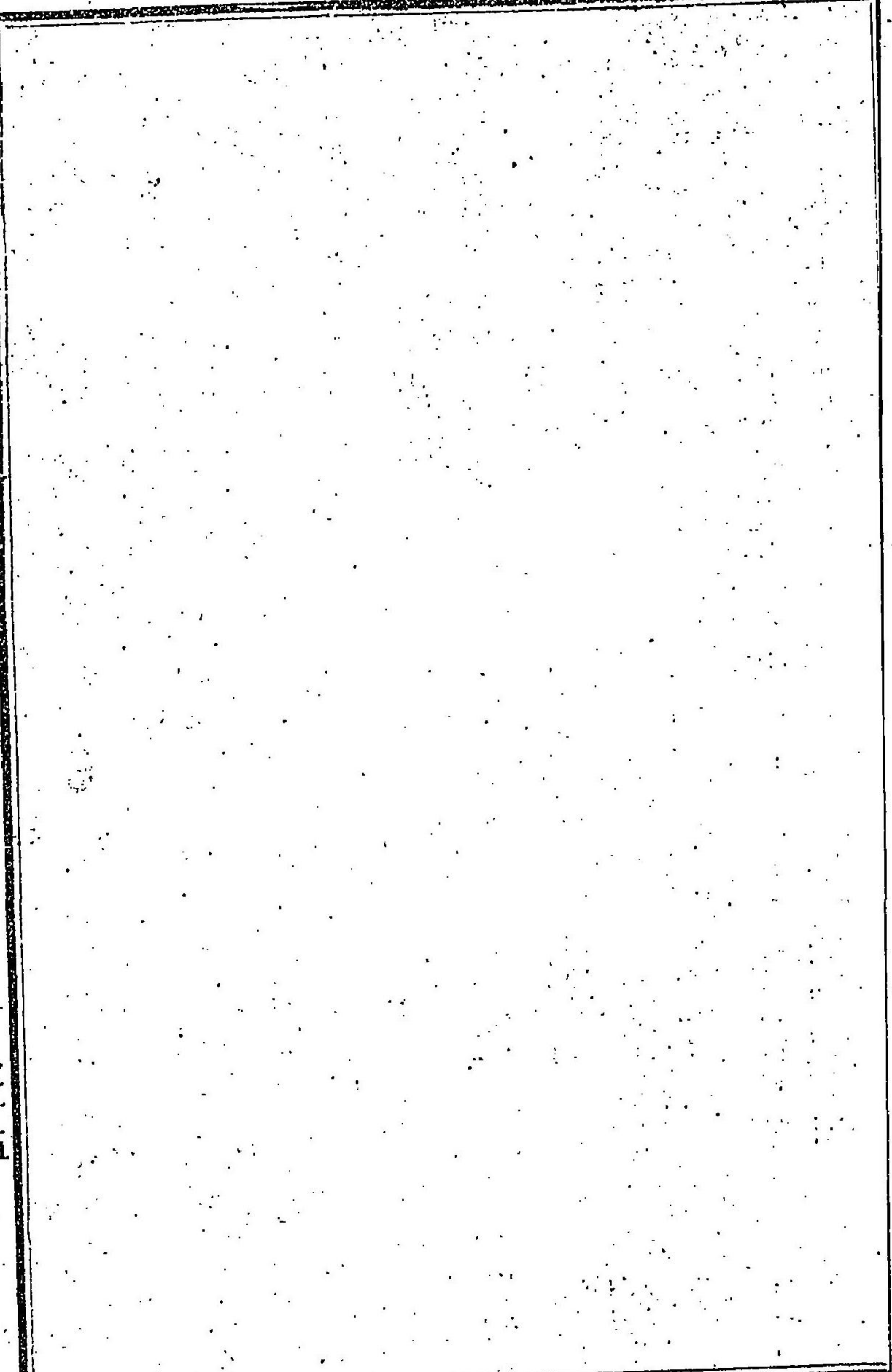
一	項九百円七百三十円	六百三十円	四百五十円	三百六十円	二百八十円	二百三十五円	八円九十	四十五円	四十五円	三十六円	二十七円
二	項七百五十円	六百円	五百十五円	四百七十五円	三百九十円	三百三十五円	九十七円	七十五円	三十四円	三十四円	三十四円
三	項六百円	四百八十円	四百三十三円	三百五十八円	二百九十円	二百三十五円	九十七円	七十五円	三十四円	三十四円	三十四円
四	項四百五十円	三百六十円	三百十五円	二百三十三円	百八十八円	百三十五円	九十七円	七十五円	三十四円	三十四円	三十四円
五	項三百円	二百四十円	二百十五円	百三十三円	百八十八円	百三十五円	九十七円	七十五円	三十四円	三十四円	三十四円
六	項二百円	一百四十円	百十五円	百三十三円	百八十八円	百三十五円	九十七円	七十五円	三十四円	三十四円	三十四円

戊 號 寡婦(孤兒)扶助料表

一	等二	等三	等四	等五	等六	等七	等八	等九	等十	等十一	等十二	等十三	卒
千	円八百	円七百	円六百	円五百	円四百	円三百	円二百	円一百五十	円一百	円五十	円四十	円三十	円

己 號 給助金表

一	等二	等三	等四	等五	等六	等七	等八	等九	等十	等十一	等十二	等十三	卒
千	五百	円四百	円三百五十	円三百	円二百五十	円二百	円一百五十	円一百	円五十	円四十	円三十	円	円



○恩給令

救助金

○恩給令

恩給令ニ係ル追達

二十六

第九章 恩給令ニ係ル追達

○司法省丁第廿五號 大審院達 明治十六年 裁判所 九月廿六日

陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者及ヒ扶助料ヲ受クル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪ノ處分ヲ爲ス時ハ恩給登錄寫帖ヲ收奪シ宣告文ノ寫相添其都度速ニ當省ヘ差出ス可シ此旨相達候事

○陸軍省甲第四十號 府達 明治十六年 縣達 十一月十九日

左之通太政官ヨリ達相成候條爲心得此旨相達候事

陸軍省

本年第三十七號達ヲ以テ陸軍恩給令ヲ改正シ陸軍罷役俸并恤金令廢止候處右恩給令改正前ニ舊恩給令ニ依リ恩給扶助料罷役俸罷役恤金ヲ給與シタル者又ハ給與スヘキ資格ヲ備ヘ詮議中ニ係ル者ハ舊恩給令ニ照シ給與スヘシ此旨相達候事

明治十六年十一月八日

太政大臣三條實美

○大藏省伺 明治十六年 十月一日

本年^九月第三十七號ヲ以テ陸軍恩給令改正并第三十八號ヲ以テ海軍退隱令ヲ廢シ更ニ恩給令ヲ定メテレ候ニ付テハ該公達以前舊令ヲ以テ賜給ノ分ハ總テ從前ノ通賜給可相成儀ニ候哉明文無之疑義ニ涉候條此段相伺候尤交付期節ニ差臨ニ候間否至急御指揮ヲ仰キ候也

○太政官指令 十六年 十月二十日

伺之通

○恩給令

恩給令ニ係ル追達

二十七

第二類 勳章年金

第一章 年金渡方手續概則

○賞勳局錄事 明治十年十二月

年金渡方手續概則

第一款 賞勳局ハ有功受賞ノ本人ハ年金下賜ノ儀達シ濟ミノ上年金票ヲ同時ニ本人
ハ付與スヘシ

第二款 賞勳局ハ年金下賜ノ時ニ何月幾日 某官某名某府縣原籍ナモ記載ス 勳何等ニ叙セラレ年金若干

ヲ賜リ第何號ノ年金票ヲ下賜セラレタル旨及ヒ受賞人ヨリ申立タル年金受取場所
詳細大藏省ヘ通報シ同省ニ於テ此通報ヲ得ルヤ直ニ該金額渡方取計ヘキ地方廳ヘ
通達スヘシ

第三款 年金ハ本人管轄廳又ハ寄留ノ地方廳ノ内イッレニ於テモ其便ニ從ヒ受取得
ヘキモノニ付受証ノ本人ハ此金票ヲ該廳ヘ持參シ現金ヲ受取ルヘシ若シ其人ニ代

理ヲ命セハ委任狀ヲ附シテ之ヲ該廳ニ示スヘシ

第四款 本人又ハ代理此金票ヲ持參セハ其管轄廳又ハ寄留ノ地方廳ニ於テハ之ヲ檢
査シ其票一紙ヲ以テ本人終身金額ヲ受取ルヘキ筈ニ付票上註明ノ金額渡濟ミノ上
本票ハ之ヲ持參セシ受取人ヘ附還シ別ニ金額ノ收證ヲ出サシム

第五款 地方廳ニ於テハ別ニ一帳ヲ製シ置シ年金渡シ高月日受取人姓名等明細ニ記シ
毎年六月十二月現金渡シ濟ミノ上成規ノ通勘定帳ヲ大藏省ヘ差出スヘシ

第六款 年金ハ每年上半ケ年分ヲ六月一度ニ下半ケ年分ヲ十二月一度ニ地方廳ニテ
附與スルヲ例トス

第七款 年金ハ一月以降六月三十日迄ノ内ニ附與ノ達シテ受ケタル者ヘハ上半季分
ノ全額ヲ給シ七月ヨリ以降十二月卅一日マテノ内ニ附與ノ達シテ受ケタル者ヘハ下
半年分ノ全額ヲ給スルヲ例トス

第八款 地方廳ニ於テ大藏省ノ達ヲ得ハ其金額ハ第六款ニ據リ同省ヘ請求スヘシ (四十)

○年金渡方手續概則

三十〇

年十一月大藏省)
達ヲ以テ改正ス)

第九款 受賞人ノ請願ニ依リ其本管廳又ハ寄留ノ地方廳ニ於テ渡方取計ヘシ故ニ金票拜受ノ際金額受取場所ノ儀賞勳局ヘ申立ヘシ尤甲所ニテ受取來リ後チ更ニ乙所ニ於テ受取方ヲ要スルキハ受取期月ニ先シテ甲廳ニ其旨届出乙廳ニ於テ受取度旨ヲ賞勳局ニ届出ヘシ賞勳局ハ之ヲ大藏省ニ通牒スヘシ

第十款 十一年五月追加年金受領ノ本人死去スル時ハ其死去ノ日一月以降六月迄ニ在ルモノハ上半ケ年分七月以降十二月迄ニ至ル者ハ下半ケ年分ヲ給スヘシ但其年金票ハ最終ノ下附金ヲ給スル時地方廳ヘ之ヲ收シ地方廳ヨリ賞勳局ニ還納スヘシ賞勳局ハ之レヲ大藏省ヘ通牒スヘシ

○賞勳局錄事^{全十二年}_{六月}

年金渡方手續概則左ノ通追加相成候事

年金渡方手續概則追加

第十一款 勳等年金拜受ノ者事故アリ姓名ヲ改メシキハ本籍戸長ノ與印アル届書ヲ本人所有年金證ニ添ヘ現受取場所ノ地方廳ニ出スヘシ地方廳ニ於テハ之ヲ認可シ該年金證ノ裏面ニ何年何月何日改姓名セシヲ簡明ニ記入シ長官之ニ名印シテ本人ニ却付ス而後地方廳ハ其事由ヲ賞勳局及ヒ大藏省ニ届出ヘシ
但シ年金拜受以來ノ改姓名ニ係ル者ハ都テ此手續ニ據ルモノトス

○賞勳局錄事^{明治十二年}_{九月十六日}

第十二款 勳等年金拜受ノ者火災或ハ盜難ニ罹リ又ハ遺失等ニテ所有ノ年金證紛失ニ及フコトアラハ即時ニ該證ノ寫シ全文其寫シヲ所持ナキ者ハ何號何額ノ年金證如何ナル事由ニ依テ紛失ニ及ヒタル次第ヲ詳記シ代リ年金證請求方ヲ年金受取場所ノ地方廳ヘ願出スヘシ地方廳ニ於テ右ノ願書ヲ受取ルキハ其旨賞勳局ヘ申請シ且同時ニ紛失ノ旨大藏省ヘ届出スヘシ然ルキハ賞勳局ニ於テ前證ニ代ユヘキ新證ヲ作り該地方廳ヲ經テ本人ヘ付與セシムヘシ尤新證ヲ付與セサル間ハ本人ノ年金

○年金渡方手續概則

三十一

渡方ヲ停止ス仍テ其間ニ相渡スヘキ年金ハ新證ヲ付與シタル次ノ拂渡期月ニ一同
之ヲ相渡スヘシ

但本文紛失ノ年金證ハ發覺次第本人ヨリ其管轄廳ヘ差出シ該廳ヨリ之ヲ賞勳局
ヘ差出スヘシ

明治十二年九月十六日

太政官賞勳局

大藏省

○大藏省無號府 明治十六年
縣 十月廿九日

賞勳年金渡方手續概則一第十三款以下左之通り追加相成候條此旨相心得年金非受者
ヘ無遺漏達方可致此旨相達候事

第十三款 勳等年金拜受ノモノ其勳章及ヒ年金ヲ褫奪セラレ又ハ勳章及年金ヲ停止
セラレタル時ハ其區分左ノ如シ

一 重罪輕罪ノ訴ヲ受ケテ拘留ノ後保釋責付亦同シ
以下之ニ做フ勳章褫奪セラレタル者ハ其拘留

セラレシ日ヨリ年金ヲ止ム

二 明治十六年第三拾九號達第一條第二項第三項ニ依リ勳章ヲ褫奪セラレタルモ
ノハ其褫奪ノ日ヨリ年金ヲ止ム

三 輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレ勳章褫奪ニ至ラサルモノハ其犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘
留セラレシ日ヨリ刑期終ルノ日迄年金ヲ給セス

四 犯罪ノ訴ヲ受ケテ拘留ノ後免訴ノ言渡ヲ受ケタルモノハ其拘留セラレシ日ヨリ
放免日迄年金ヲ給セス又無罪ノ言渡ヲ受ケタルモノハ之ヲ給ス

第十四款 年金可與ノ期月ニ至リ前款一項二項ノモノニハ其拘留又ハ褫奪以前ニ係
ル分ヲ付與シ又三項四項ノモノニハ其停止中ノ分ヲ扣除シ又ハ扣除セスシテ付與
スヘシ若シ拘留及刑期年金付與ノ期月ニ跨ルキハ次回ノ期月ニ於テ計算付與スヘ
シ

年金扣除ノ計算方ハ壹ケ年ニ滿ラサルモノハ年額ヲ十二ケ月ニ折算シ又一ケ月ニ

滿タサルモノハ一月三十日ヲ以テ算スヘシ但シ月ト日トニ跨ルルハ皆日數ニ換
〜年額ヲ乘シ三百六十日ヲ以テ除算スヘシ

第十五款 勳等年金拜受ノ者勳章褫奪又ハ停止セラレタルハ賞勳局ハ之ヲ大藏省
ニ通報シ大藏省ニ於テハ年金渡方ノ地方廳ニ達スヘシ

第十六款 勳等年金拜受ノモノ失踪若クハ逃亡スルハ其他人ニ代理ヲ命スルト否
トニ拘ハラズ地方廳ニ於テ年金渡方ヲ停メ置キ他日復歸スルカ又ハ踪跡分明ナル
ハ榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アリシヤ否ヲ取調ヘ其所爲之レナキハ年金付與ノ期
月ニ於テ全額ヲ下付スヘシ若シ其所爲之レアルト見ルハ明治十六年第三十九號
達ニ依リ賞勳局總裁ニ具狀スヘシ

但失踪逃亡ノキ又ハ踪跡分明若クハ復歸シタルハ本文具狀ヲ除クノ外速ニ地方廳ヨリ賞
勳局及ヒ大藏省ニ届出ツヘシ

明治十六年十月

太政官賞勳局

大藏省

第二章 勳章年金褫奪及停止取扱手續

○太政官第廿二號布告同十六年六月廿九日

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アル時ハ勳章及ヒ年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ
其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヘテ受ケ拘留若クハ保釋責付セラレタル時ハ勳章ヲ佩
用スルコトヲ得ス又之ニ屬スル禮遇特權及ヒ年金ヲ受クルコトヲ得ス

右奉 勅旨布告候事

○太政官第三十九號官省院廳府縣達明治十六年九月十三日

本年六月第二拾二號布告ノ旨ニ依リ勳章年金褫奪及停止取扱手續左ノ通相定候條此旨
相達候事

勳章年金褫奪及停止取扱手續

○勳章年金褫奪及停止

○勳章年金褫奪及停止

三十七

第一條 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、トキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第一項 重罪輕罪ノ刑ニ該ル者

但輕禁錮以下ノ刑ニ該ル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第二項 懲戒例及免黜條例ニヨリ免官シタル者

第三項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第二條 勳章ヲ有スル者ニハ先ツ其勳章勳記年金票佩用免許狀ヲ褫奪シタル後處刑言渡ヲ爲スモノトス

第三條 第一條第一項ニ觸ル、者アルトキハ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第四條 第一條第二項第三項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第五條 賞勳局總裁ハ其具狀ヲ審査シ重禁錮以上ノ刑ニ該ル者ハ直ニ上奏シ其輕禁

錮以下ノ刑又ハ第一條第二項第三項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ依テ其褫奪ノ當

否ヲ論定シ褫奪スヘキ者ハ奏請ス

第六條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム

褫奪ニ及ハサルトキハ賞勳局總裁ヨリ褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヘ通知スヘシ

第七條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票佩用免許狀ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納スヘシ

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法卿又ハ陸海軍卿ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

但公訴權消滅スルカ若シハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦之ヲ申告スヘシ

○指令之部

○勳章年金褫奪及停止

三十七

○勳章年金褫奪及停止

三十八

○陸軍省伺明治十六年十月

今般達第三拾九號ヲ以テ勳章年金褫奪及ヒ停止取扱手續御達相成候處其以前ニ於テ輕重禁錮ノ刑ヲ受ケ候者有之右ハ本年第二拾二號御布告後ニ係ルト雖モ第三拾九號御達以前ナルヲ以テ勿論該手續ニ準據スヘカラサル義ト相心得可然哉此段相伺候也

○太政官指令

伺ノ趣本年第二拾二號布告發布後ハ第三拾九號達ニ據リ處分スル義ト可相心得事

第三類 陸軍武官婚姻法

第一章 陸軍武官結婚條例

○陸軍省甲第十三號府達明治十四年五月三日

陸軍武官結婚條例別冊之通被相定候條此旨相達候事

明治十四年五月三日

陸軍卿 大山巖

陸軍省

陸軍武官結婚條例別冊ノ通相定候條此旨相達候事

明治十四年四月廿五日

左大臣 熾仁親王

陸軍武官結婚條例

○陸軍武官結婚條例

三十九

○陸軍武官結婚條例

四十一〇

陸軍武官結婚條例

第一條 凡ソ軍人ハ最モ其品位ヲ重ニス故ニ其配偶ヲ擇ミ以テ終身ノ活計ヲ維持セシメ家政ヲ治メテ以テ其職掌ヲ確守セシム若シ配偶其匹ヲ擇ハス之ヲ輕忽ニセハ一ハ以テ其品位ヲ傷ケ一ハ以テ其營生ニ煩ハサレ遂ニ其職掌ヲ汚シ隨テ全軍ノ精カヲ殘フニ至ル仍テ左ニ其制限ヲ設ク

第二條 凡ソ軍人ノ結婚セント欲スル者將官並ニ同等官ニ在テハ勅許ヲ仰キ准士官以上ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ受クベシ

第三條 下士卒常備服役中ハ結婚スルヲ許サズ然レモ再役以上ノ下士卒并ニ豫備後備軍服役中ノ下士卒ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得

但憲兵并會計軍醫馬醫軍樂部ノ下士卒（徵兵令ニ依リ徵集シテ除ク）及ヒ砲兵監護工兵監護ニ在テハ常備服役中ト雖モ所管長官ノ許可ヲ受ケ結婚スルヲ得（十六年九月陸軍省甲第 三十二號達ヲ以テ該但 書ヲ改 正ス）

第四條 結婚ノ許可ヲ得ントスル者ハ第一號書式ニ照シ出願スベシ

第五條 將官并同等官ニ在テハ陸軍卿與書シ准士官以上ニ在テハ所管長官下士以下ニ在テハ所屬隊長課長豫備及ヒ後備軍下士以下ニ在テハ後備軍使府縣駐在官與書スベシ

第六條 其娶ルヘキ婦人ハ行狀端正ノ者ニ非レハ結婚スルヲ許サズ故ニ其行狀ヲ證スル爲メ第二號書式ニ照シ其婦ノ所在地戶長ノ調印シタル身元證書ヲ添フベシ

第七條 現役士官并ニ同等官以下ニ在テハ家計保護金トシテ左ノ金額ヲ納メシメ陸軍省ニ之ヲ保存シテ以テ其生計ヲ保護セシム故ニ結婚出願ノ時第三號書式ノ證書ヲ出スベシ

- 大尉并同等官 四百六拾圓
- 中少尉并同等官 六百圓
- 准士官 八拾圓

○陸軍武官結婚條例

四十一

下士

八拾圓

第八條 第三條但書ニ載スル諸卒ニ在テ結婚スル時ハ第七條ニ準シ家計保護金ヲ納メシム其金額ハ下士ニ同シ

第九條 第七條ノ金額ハ本人又ハ其娶ルヘキ婦人ノ所有或ハ雙方ノ所有ヲ合シタルモ妨ケナシ

但シ公債證書ヲ以テ納ムルモ妨ケナシト雖モ大藏省ニ於テ定ムル所ノ價格ヲ以テ之ヲ算シ第七條ノ全額ニ相當セシム

第十條 結婚ヲ整ヘタル時ハ其旨速ニ届出ヘシ

但シ家計保護金ハ本文出同時ニ差出ヘシ

第十一條 家計保護金ヲ還付スルハ左ノ項目ニ依ルベシ

第一項 上長官ニ昇進セシ時

第二項 恩給ヲ受ルノ權利ヲ有スル時

第三項 本人死没スルカ又ハ現役ヲ離ル、時

第四項 其妻離別スルカ又ハ死亡シタル時

第五項 天災地變ニ罹リ家産擧テ滅亡シタル時

第十二條 結婚願書式ニ證書式左ノ如シ

第一號

結婚願

使府縣國郡區町村

族籍職業

何某何女姉妹

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

某儀

今般熟談ノ上右ニ記載ノ者ト結婚致シ度依テ別紙身元證書家計保護金證書相添差出候間御
許可被下度此段奉願候也

年號 月 日

官 姓 名 印

陸軍大臣
宛
所管長官

陸軍官
所管長官
何 課 長

官 姓 名 印

前書之趣篤ト取調候處不都合無之ニ付御許可相成度候也

第二號書式

身元證書

使府縣國郡區町村

族籍職業

何某何女姉妹

某

年號月日生

年號月何年何ヶ月

右ハ行狀端正ノ者ニ有之候此段致保證候也

使府縣國郡區町村戸長アラサル
地ハ區長

年號 月 日

姓 名 印

第三號書式

家計保護金證書

一金何百何拾圓也

右ハ今般結婚奉願候ニ付御許可ノ上ハ家計保護金トシテ可差出候也

年號 月 日

第二章 陸軍武官結婚家計保護金取扱概則

○陸軍省乙第廿七號陸軍明治十五年
一般達四月廿九日

陸軍武官結婚家計保護金取扱概則別紙ノ通相定候條此旨相達候事

陸軍武官結婚家計保護金取扱概則

第一條 陸軍武官結婚條例第七條ニ掲クル家計保護金ハ總テ其所管長官ヨリ會計局長ニ送付ス會計局長ハ計算課長ヲシテ之ヲ管理セシム

第二條 會計局計算課長保護金ヲ受領スレハ預リ証券ヲ作り會計局長ヨリ其所管長官ヲ經テ之ヲ本人ニ付與ス

但預リ証券ヲ付與スル迄ハ其所管ニ於テ假ニ請取証券ヲ渡シ置クベシ

第三條 保護金ヲ納ムルニ公債証券ヲ以テスルハ之ニ屬スル利札ハ利子下渡シノ期節前會計局長ヨリ所管長官ヲ經テ之ヲ本人ニ付與スベシ

但本人ノ所管換リタル時ハ其旨舊所管長官ヨリ直ニ會計局長ニ通報スベシ

第四條 公債証券ヲ納ムル者其證書額面ノ都合ニヨリ條例第七條ノ金額ヨリ超過スルハ妨ケナシ

第五條 保護金ハ結婚出願セシ時ノ官階ニ應スル金額ヲ納メシメ其後本人官等ニ異動アルモ之ヲ増減スルコトナシ

第六條 其公債証券抽籤ニ當リタル時ハ他ノ公債証券若クハ現金ヲ以テ交換スベシ

第七條 若シ前條ノ手順ヲ爲サス當籤ノ金額ヲ以テ之ニ充テントテ望ム者ハ其金額ヲ直ニ陸軍省ニ交付アシントテ公債証券所轄ノ府縣へ出願シ且其趣ヲ所管ニ申出ヘシ所管長官ハ會計局長ニ通報ス會計局長ハ公債証券ヲ其府縣ニ送付シテ金額ヲ受領シ保護金ニ對スル金額ヨリ過剩ノ分ハ本人ニ付與ス

第八條 (十六年三月陸軍省乙第
三十五號ヲ以テ追加) 公債証券ヲ納ムル者該証券ノ所轄替ヲ爲シ新所轄應ニ於テ証券ニ割印等ノ爲メ一旦下戻ヲ要スル時ハ會計局長ヨリ付與シテ預リ証券ヲ添へ書面ヲ以テ所管長官ニ出願シ所管長官之ヲ會計局長ニ照會シ會計局長ハ預リ

証券ト引換ヘ所管長官ニ送付スベシ

第九條 (上) 前條公債証書會計局長ヨリ送付スル時ハ所管長官ハ之ヲ本人ニ下付シ
速ニ所轄府縣廳ニ就キ割印ヲ請ケシメ所管長官ヨリ更ニ會計局長ニ返付スベシ

○陸軍省甲第十一號府達同十五年
縣達五月十一日

明治十四年五月中達甲第十三號ヲ以テ相達候陸軍武官結婚條例第七條掲載家計保護
金ノ儀ハ現金又ハ公債証書ヲ以テ相納メ其公債証書抽籤ニ當リタル時ハ現金若クハ
他ノ公債証書ト交換スルノ定規ニ有之若シ右ノ手順ヲ爲サス當籤ノ金額ヲ直チニ之
ニ充ソコト望ム者ハ其旨公債証書所轄ノ管廳ヘ出願候等ニ付右出願ノ節ハ交付方當
省ヘ可申出此旨相達候事

但本文公債証書ハ當省會計局長ヨリ其府縣ヘ送付ノ上金額ヲ受領シ保護金ニ對ス
ル金額ヨリ過剩ノ分ハ直ニ本人ニ付與スベシ

○指令之部

○和歌山縣伺同十四年
月日不詳

本年五月達甲第十三號陸軍武官結婚條例御達相成候ニ付豫備軍後備軍服役中ノ者
結婚ニ關スル願書ハ該條例第一書式ニ照シ出願候ニ就テハ本年三月達甲第七號御
達後備軍指令部條例中結婚ニ關スル願書第一書式ハ自ラ消滅候儀ト思考候得共爲
念此段相伺候也

○陸軍省指令

伺之趣本年當省達甲第二十一號達後備軍司令部條例第廿四條改正ノ通可相心得事

○愛知縣伺同十五年
月日不詳

陸軍下士在役中妻ナク妾ヲ迎ル時ハ陸軍武官結婚條例ニ關セサル儀ニ候哉右ハ戶
籍法ニ依レハ送入籍ノ順序ヲナシ五等親中妻ト同ク二等親ニ有之候得共該條例妾
ノ明文無之ニ付相伺候也

○陸軍省指令

伺之趣ハ陸軍武官結婚條例ニ關セザル儀ト可相心得事

○千葉縣伺 同十五年
月日不詳

後備軍司令部條例第二拾四條豫備兵及ヒ後備兵服役中結婚セント欲スル者ハ陸軍武官結婚條例第四條及ヒ第十二條ニ據リ其願書ニ身元證書ヲ添ヘ云々改正ノ儀本年達甲第二拾一號ヲ以テ御達相成候然ルニ該軍服役中ノ者ニ在テハ家計保護金ヲ要セサル儀ハ儀ニ本縣ヨリ伺御指令ノ通相心得候就テハ第十二條願書式中家計保護金証書文字ヲ除キ官姓名ヲ豫備後備軍某ト爲相認結婚濟ノ上ハ同條例第十條ニ據リ届書爲差出候等ニ候處該届書ノ儀ハ無論鎮臺司令官宛ニテ差問無之哉此段相伺候也

○陸軍省指令

伺之趣官姓名ハ後備軍指令部條例第貳拾貳條揭示ノ書式ニ準シ記載セシムヘシ届書宛ハ伺之通

○陸軍士官學校伺 同十五年
月日不詳

當校士官生徒結婚ノ儀陸軍武官結婚條例中別段明文無之候得共先般本校條例御改正ノ際右士官生徒ノ入學ノ日ヨリ常備兵籍ニ編入セラルヘキヲニ御定相成候ニ付テハ結婚條例中第三條常備服役ノ下士卒ニ準シ結婚不被差免儀ト相心得可然哉此段爲念相伺候也

○陸軍省指令

伺之通

○陸軍士官學校伺 同十五年
月日不詳

自今本校士官生徒ニ採用可相成者ハ未タ結婚不致者ニ限リ候様致度此段相伺候也但幼年生徒ノ儀ハ士官生徒ニ採用相成入學差許候者ニ付是亦本文同様未婚ノ者ニ限リ入學被差許度此段伺添候也

○陸軍省指令

書面追書共同之通

第四類 改正徵兵令

第一章 總則

○太政官第四十六號布告明治十六年十二月廿八日

徵兵令別冊ノ通改正ス

右奉 勅旨布告候事

太政大臣 三條實美

陸軍卿 大山巖

海軍卿 川村純義

別冊

徵 兵 令

第一章 總則

- 第一條 全國ノ男子年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ハ總テ兵役ニ服ス可キ者トス
- 第二條 兵役ハ陸軍海軍共ニ常備兵役後備兵役及ビ國民兵役トス
- 第三條 常備兵役ハ別ナテ現役及ビ豫備役トス其現役ハ三個年ニシテ年齡滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ其豫備役ハ四個年ニシテ現役ヲ終リタル者之ニ服ス
- 第四條 後備兵役ハ五個年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス
- 第五條 國民兵役ハ年齡滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及ビ後備兵役中ニ在ラザル者之ニ服ス
- 第六條 各兵服ノ期限己ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアルベシ
- 第七條 重罪ノ刑ニ處ヒラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ許サズ

第二章 服役

- 第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身材藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵砲兵工兵輜重兵及ビ雜卒職工ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
- 海軍現役兵ハ海軍所要ノ人員ニ應シ沿海地方及ビ島嶼ノ人民ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ從ヒ水兵火夫職工等ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ
- 但海軍志願兵徵募規則ニ依リ就役スル者ハ本令ノ限ニ在ラス
- 第九條 陸軍雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ
- 但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減ズルコトナシ
- 第十條 年齡二十歳ニ滿タズト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルコトヲ得
- 第十一條 年齡滿十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニ因リ一個年間陸軍現役ニ服セシム
- 其技藝ニ熟達スル者ハ若干月ニシテ歸休ヲ命ズルコトアル可シ

但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減ズルコトナシ

第十二條 現役中殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者及ビ官立公立學校小學校ノ歩兵操ヲ除ク

練科卒業證書ヲ所持スル者ハ其期未ダ終ラズト雖モ歸休ヲ命ズルコトアルベシ

第十三條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集シ常備隊ヲ充實シ又補充隊ニ編

制ス平常ニ在テハ技藝復習ノ爲メ毎年一度六十日以内之ヲ召集シ又兵員實查ノ爲

メ毎年一度點呼ヲ爲ス但海軍豫備兵ハ技藝復習ノ爲メ召集スルコトナシ

第十四條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集シ常備兵ノ後援ト

爲ス平常ニ在テ其技藝復習ノ爲メニ召集シ及ビ兵員實查ノ爲メニ點呼ヲ爲スコト

豫備兵ニ同シ

第十五條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ

限リ之ヲ召集シ隊伍ニ編制シテ軍役ニ充ツ

第三章 免除及ビ猶豫

第十六條 兵役ヲ免除スルハ癡疾又ハ不具等コシテ徵兵檢査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘ

ザル者ニ限ル

第十七條 左ニ掲グル者ハ徵集ヲ猶豫ス

但其年補充員不足スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ之ヲ

徵集ス

第一項 兄弟同時ニ徵集ニ應ズル者ノ内一人及ビ現役兵ノ兄或ハ弟一人

第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ兄或

ハ弟一人

第三項 戸主年齢滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 戸主癡疾又ハ不具等コシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザル者ノ嗣子或ハ

承祖ノ孫

第五項 戸主

第十八條 左ニ掲グル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

第一項 教正ノ職ニ在ル者

第二項 官立府縣立學校小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員

タル者

第三項 官立大學校及ビ之ニ準ズル官立學校本科生徒

第四項 陸海軍生徒海軍工夫

第五項 身体未ダ定尺ニ滿タザル者

第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未ダ勞役ニ堪ヘザル者

第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

第八項 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人ト爲リ裁判未決ノ者

第九項 公權停止中ノ者

第十九條 官立府縣立學校小學校ヲ除クニ於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六

箇年以内徵集ヲ猶豫ス

第二十條 左ニ掲グル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハズ復習點呼ノ爲メ

召集スルコトナシ

但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召集スルコトアル可シ

第一項 官吏判任以上及ビ戶長

第二項 教導職試補ヲ除ク

第三項 官立公立學校教員

第四項 府縣會議員

第五項 官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

第二十一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ

太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアル可シ

第二十二條 左ニ掲グル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第二項 癡疾又ハ不具等コシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルコト非ス或ハ重罪ノ

刑ニ處セラレタルコト非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ能メ更ニ定メタル嗣

子承祖ノ孫

第三項 年齢六十歳未満ノ戸主癡疾又ハ不具等コシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハ

サルコト非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルコト非スシテ戸主ヲ能メ年齢六十歳以上

ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタル戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖

ノ孫

第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經カル者ノ跡ニ定タル嗣子承祖ノ孫

第六項 第二項 癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルコト非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セ

第三項 年齢六十歳未満ノ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルコト非ス或ハ重

主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫 第四項 (分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫) ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシ

テ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルコト非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルコト非スシテ戸主ヲ能メ其跡ヲ繼ギタル戸主

第七項 年齢六十歳未満ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハザルコト非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルコト非スシテ戸主ヲ能メ其跡ヲ繼ギタル戸

主

第八項 嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能

ハサルコト非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルコト非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼ガス他ノ者ニシテ其跡ヲ繼ギタル戸主

第九項 戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼ギタル戸主

第二十三條 第十八條第一項 (改正ノ職) 第二項 (官立府縣立學校(小學校ヲ除ク)ノ卒業證書

者) 第三項 (官立大學校及ビ之ニ準ズル官立學校本科生徒) 第四項 (陸海軍生徒) 陸海軍生 第十九條第二十一條ニ當

ル者ト雖モ第三十五條ニ示シタル徵兵各自屆出期限即チ九月十六日以後ニ係ル者ハ徵集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラズ

第四章 徵兵區及ビ抽籤

第二十四條 徵兵區ハ軍管師管及ヒ府縣ノ區域ニ從フ其軍管ニ從フモノヲ軍管徵兵區ト爲シ師管ニ從フモノヲ師管徵兵區ト爲シ府縣ニ從フモノヲ府縣徵兵區ト爲ス但府縣ノ管地面師管ニ分屬スルモノハ師管毎コ一區ヲ設ク軍管及ビ師管ノ徵兵區域ハ別表ニ掲ク

第二十五條 各鎮臺ニ屬スル歩兵ハ其師管徵兵區限リ其他ノ諸兵ハ其軍管徵兵區限リ之ヲ徵集ス

但現役徵員及ヒ其補充員不足スルトキ歩兵ハ他ノ師管其他ノ諸兵ハ他ノ軍管徵兵區ヨリ之ヲ補フ

海軍及ビ近衛ノ諸兵ハ右軍管徵兵區ニ配當シテ全國ヨリ之ヲ徵集ス

第二十六條 抽籤ハ各府縣徵兵區限リ之ヲ行フモノトス府縣徵兵區ニ於テハ其區壯丁ノ身軀検査終リタル後兵役ニ適ス可キ人員ノ身材職業ニ從ヒ兵種ヲ區別シ番號ヲ定メ抽籤セシム

第二十七條 籤ハ一郡區毎ニ籤丁ノ人撰チ以テ一名乃至三名ノ總代人ヲ出シテ之ヲ抽カシム

第二十八條 抽籤ノ法ハ籤丁ノ數ニ應ジ籤札ニ兵種番號ヲ記シ籤箱ニ納レ籤簿掛ノ面前ニ置キ籤丁名簿ノ順序ニ從ヒ其氏名ヲ呼ビ總代人ニ之ヲ抽カシメ籤簿掛ハ抽籤ノ正否ヲ監シ抽キ擧グル所ノ番號ヲ高聲ニ呼ハシメ其籤札ヲ受取り籤簿ニ氏名番號ヲ記シ籤札ハ總代人ニ交付ス

第二十九條 籤ハ其番號現役徵員ノ數ニ滿ツル迄ヲ以テ現役籤トシ其餘ヲ以テ補充籤トス

第五章 補充員及ヒ豫備徵員

第三十條 補充員ハ補充籤ヲ抽キタル者ヲ以テ一個年間之ニ充ツ其期限内現役兵欠員スルトキ又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ其番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

補充員ノ數ハ概テ現役徵員五分ノニヨリ少カラザルモノトス

第三十一條 補充員ニシテ其期限内徵集ノ命ナキ者及ビ第十八條第三項(官立大學校及
官立學校
本科生徒)ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歲迄之ヲ第

一 豫備徵員トス

第三十二條 第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及ビ第一豫備徵員ヲ終リタル者年齡滿三十二歲迄ハ之ヲ第二豫備徵員トス

但十七條ニ當ル者第二豫備徵員ト爲リタル後六個年間ニ該條ニ掲グル資格ヲ失ヒタルトキハ現役ニ徵集ス

第三十三條 豫備徵員ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ之ヲ徵集ス

但第二豫備徵員ヲ徵集スルハ後備兵ヲ召集スルトキニ限ル

第六章 雜則

第三十四條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿十七歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ

同月十五日迄ニ戶主本人戶主ナレバ自身以下
戸主トアルモノ皆同シヨリ本人ノ氏名族籍住所誕生ノ年月日及

ビ職業ヲ記載シ本籍ノ戶長ニ届出可シ

第三十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ年齡滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ九月一日ヨリ

同月十五日迄ニ書面ヲ以テ戶主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出可シ若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出可シ

但二十歲未滿ニシテ現ニ服役スル者ハ届出ルニ及バズ

第三十六條 第十七條ニ當ル者其資格ヲ失ヒ第十八條第十九條第廿一條ニ當ル者其事故止ミ及ビ第三十二條但書ニ當ル異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ其年ノ

九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戸主ヨリ本籍ノ戸長ニ届出可シ

但九月十六日以後翌年四月十日以前本條ニ當ル者ハ三日以内ニ本籍ノ戸長ニ届出可シ

第三拾七條 他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徴集ニ應セント欲スルトキハ其地ニ居住スル者^主ヲ以テ證人ト爲シ八月十五日迄ニ戸主ヨリ其旨ヲ本管廳ニ願出ヅ可シ

但シ第三十五條ノ届書ハ寄留地ノ戸長ニ差出ス可シ

第三十八條 現役兵在營在艦中ハ定額ノ日給ヲ喫ヘ服食等ヲ給ス

第三十九條 疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ罹ル者ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出可シ其事故止ムトキ亦同シ

第四十條 第三十九條ニ掲グル者其年九月一日ニ至ルモ事故猶止マザルトキハ之ヲ翌年廻シノ者ト爲シ翌年更ニ検査ヲ遂ケ他ノ徴員ニ先チ徴集ス可シ

但戰時若クハ軍變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ翌年徴集ノ期ヲ待タズ徴集ス

第四十一條 兵役ヲ免レンガ爲メ身軀ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ

又ハ逃亡若クハ潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナク検査所ニ參會セズ又ハ第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ抽籤ノ法ヲ用ヰズ直ニ現役ニ徴集シ又ハ翌年検査ヲ遂ケ第四十條ニ掲グル者ニ先チ抽籤ノ法ヲ用ヒズ徴集ス

第四十二條 常備現役年期ノ計算ハ總テ其入營年ノ四月二十日^{第四十一條ニ掲ク}ヨリ起

算シ豫備役及ヒ後備役年期ノ計算ハ其定例編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス但禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ監視ニ付セラレ又ハ逃亡シタル者其刑期中ノ日數及ヒ逃亡中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス

第四十三條 第三十四條第三十五條第三十六條第三十九條ノ届出ヲ爲サハル者及ヒ検査時日ノ指定ヲ受ケ正當ノ故ナク其場所ニ參會セサル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十四條 兵役ヲ免レシガ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若シハ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲アル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十五條 本令施行ノ爲メニ要スル規則ハ別ニ布達ヲ以テ之ヲ定ム

軍管師管	國名
第 第	武藏ノ内 麴町區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區
	麻布區 赤阪區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區
	下谷區 淺草區 横濱區 荏原郡 南豊島郡 北豊嶋郡
	南足立郡 北足立郡 東多摩郡 西多摩郡 南多摩郡 北多摩郡
	久良岐郡 橘樹郡 都筑郡 新坐郡 入間郡 高麗郡
	比企郡 横見郡 秩父郡 兒玉郡 那珂郡 賀美郡
	大里郡 旛羅郡 榛澤郡 男衾郡
	相模 甲斐 伊豆 上野
	信濃ノ内 南佐久郡 北佐久郡 小縣郡 埴科郡 更級郡

第 一	第 二	第 三	第 四	第 五
上高井郡 下高井郡 上水内郡 下水内郡	武藏ノ内 本所區 深川區 南葛飾郡 北葛飾郡 南埼玉郡 北埼玉郡	安房 上總 下總 常陸 下野	陸前ノ内 仙臺區 名取郡 柴田郡 磐城 岩代 羽前 越後 佐渡	陸前ノ内 宮城郡 黒川郡 加美郡 志田郡 玉造郡 遠田郡 栗原郡 登米郡 本吉郡 桃生郡 牡鹿郡 氣仙郡
尾張ノ内 名古屋區 愛知郡 葉栗郡 中島郡 海東郡	海西郡 知多郡	信濃ノ内 東筑摩郡 西筑摩郡 南安曇郡 北安曇郡 上伊那郡 下伊那郡 諏訪郡	三河 遠江 駿河 伊勢 志摩 紀伊ノ内 南牟婁郡 北牟婁郡	

第三		第六		第七		第八		第九		第十		第十一		第十二													
尾張ノ内 東春日井郡 西春日井郡 丹羽郡		美濃 加賀 能登 越中 飛彈 越前		攝津ノ内 東區 西區 南區 北區 東成郡 住吉郡		紀伊ノ内 和歌山區 名草郡 海部郡 那賀郡 伊都郡		有田郡 日高郡 東牟婁郡 西牟婁郡		山城 大和 河内 和泉 近江 伊賀		攝津ノ内 神戸區 西成郡 島上郡 島下郡 豊島郡		能勢郡 八部郡 菟原郡 武庫郡 川邊郡 有馬郡		播磨 淡路 若狹 丹波 丹後 但馬 美作		備前 因幡 伯耆		安藝 備後 備中 出雲 石見 隱岐 周防 長門		阿波 讚岐 伊豫 土佐		肥後 日向 大隅 薩摩 沖繩		豊前 豊後 筑前 筑後 肥前 壹岐 對馬	

第七

渡島 後志 石狩 天鹽 北見 膽振 日高
 十勝 釧路 根室 千島

軍管ハ軍團ノ諸兵師管ハ師團ノ諸兵ヲ徵集ス

徵兵ハ現今沖繩縣ニ之ヲ行ハズ北海道ニ於テハ第七軍管ノ鎮臺ヲ設クル迄函館縣下
 函館江差福山三ヶ所ヲ限リ之ヲ行ヒ第二軍管ノ管轄ニ屬セシム

第七章 徵兵令改正ニ付種々ノ取扱規則

○陸軍省甲第四拾四號 府縣沖繩札幌根 室ノ三縣ヲ除ク 達 明治十六年 十二月廿八日

今般第四拾六號布告徵兵令改正相成候處本年徵兵適齡即チ來十七年徵集ス可キ者ハ
既ニ舊徵兵令ニ據リ調査シ最早諸名簿整頓後ニ係ルヲ以テ十七年徵集ス可キ者ハ舊
令ニ據リ徵集致シ新令第十一條第十七條乃至第十九條第二十一條第二十二條第二十
五條第二項第三十一條中ノ生徒第三十六條ニ當ル事項ハ來十七年適齡即チ十八年徵
集ス可キ者ヨリ實施致候儀ト可心得此旨相達候事

○陸軍省甲第壹號 府縣沖繩札幌根 室ノ三縣ヲ除ク 達 明治十七年 一月十一日

左之通各鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

各 鎮 臺

昨十六年十二月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令改正相成候ニ付テハ本年徵兵使巡行ノ
儀三月十五日ヨリ始メ六月十日ヲ以テ復命可爲致此旨相達候事

○陸軍省甲第二號 府縣沖繩札幌根 室ノ三縣ヲ除ク 達 明治十七年 一月十一日

昨十六年^{十二}月第四十六號布告ヲ以テ徵兵區域改正相成依テ本年ヨリ新區域ニ據リ徵
集可致儀ニ付右改正ニ係ル府縣ニシテ己ニ舊區域ニ據リ徵兵諸名簿調製ノ上舊所管
鎮臺へ送達濟ノ分ハ其鎮臺ニ於テ之ヲ分割シ新所管鎮臺へ送附シ若シ未タ送達セサ
ル府縣ニ在テハ其府縣ニ於テ之ヲ分割シ直ニ新所管鎮臺へ送達可致此旨相達候事

○內務省乙第八號 府縣沖繩 縣ヲ除ク 達 同 十七年 一月廿八日

昨十六年當省乙第十八號達ノ趣候處同年第四十六號布告ヲ以テ徵兵令改正ニ付徵兵
服役ノ廉ハ不及調査候條此旨相達候事

(參照) ○內務省乙第十八號達 全 十六年 四月廿一日

本年乙第七號達ニ付テハ神佛各管長ヨリ照會ノ節七年致部省第二十九號達ニ準據
候ハ勿論徵兵服役ニ該ルヘキトノ條項ヲモ調査ノ上可及回答此旨相達候事

○海軍省乙第壹號 府縣沖繩 同 十七年 一月廿五日

○徵兵令改正ニ付種々ノ取扱方 布達達類

七十四

海業漁者及舟乘ノ男子満十七歳ヨリ満四十歳マテノ人口毎年一月調ヲ以テ其年三月十五日限可届出此旨相達候事

但本年ニ限り六月十五日限無通延可届出事

○陸軍省甲第九號府縣(沖繩振室札達) 明治十七年 幌ノ三縣ヲ除ク二月六日

先般徵兵令改正相成候得共本年徵集スヘキ者ハ昨十六年當省達甲第四十四號達ノ通舊徵兵令ニ據リ徵集可致儀ニ付徵兵官員及ヒ官署ノ稱呼其他事務手續ノ儀ハ改正徵兵令中直ニ實施スヘキ條件ニ矛盾スル者ヲ除クノ外舊徵兵事務條例ニ據リ施行可致此旨相達候事

○海軍省丙第三十七號海軍省同 十七年 一般 達 二月廿七日

徵兵年齡ニ相當スル者賭博犯ニ依リ懲罰處分中徵集猶豫ノ儀左ノ通御達相成候條爲心得此旨相達候事

海軍卿川村純義

海軍省

徵兵年齡ニ相當スル者賭博犯ニ依リ懲罰ヲ受ケタルトキハ右處分中徵集ヲ猶豫致ス儀ト心得ヘシ此旨相達候事

明治十七年二月二十二日

太政大臣三條實美

○陸軍省達甲第拾五號府達 同十七年 三月四日

昨十六年十二月第四十六號布告ヲ以テ徵兵令御改正相成候ニ付テハ目下豫備兵及後備兵服役ノ者ハ同令第三條及第四條ニ據リ左ノ通可相心得此旨相達候事
一 目下豫備兵服役中ノ者ハ最初豫備軍へ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ四ケ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

但定期ニアラスシテ臨時豫備軍へ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四ケ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム

一 目下後備兵服役中ノ者ハ最初後備軍へ編入セシ年ノ四月廿日ヨリ起算シ五ケ年ノ

○徵兵令改正ニ付種々ノ取扱方 布達達類

七十五

○徵兵令改正ニ付種々ノ取扱方 布達達類

役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

但定期ニ非スシテ臨時後備軍へ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ五ヶ年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

○陸軍省達甲第拾九號府達同 十七年 四月三十日

歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニ在ル者ノ賭博犯ノ處分ヲ爲シタル時ハ明治十五年當省達甲第九號達ニ準シ所轄鎮臺若クハ營所へ通牒可致此旨相達候事

但其懲罰限内ハ召集點呼セサル儀ト心得ヘシ

○陸軍省甲第貳拾三號府縣(札幌根室沖達同 十七年 五月廿二日 三縣ヲ除ク)

徵兵ニ相當スル者賭博犯ニ依リ懲罰ヲ受ケ右處分中ハ徵集ヲ猶豫シ又其處分中常備年期ヲ經過スル者ハ年齡滿三十二歲迄第二豫備徵員トスヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○陸軍省達甲第貳拾四號府縣(沖繩根室札幌三縣ヲ除ク)達同 十七年 五月廿四日

本年徵兵ノ儀來ル七月一日ヨリ同十日迄ノ間ニ入營可爲致旨鎮臺へ相達候條右日限

内鎮臺ノ通牒ニ由リ徵兵事務條例(是ハ舊條 切ナリ)第百十四條揭示ノ通可取計此旨相達候事

○陸軍省甲第貳拾五號府達同 十七年 六月十三日 縣

左之通各鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

各鎮臺

豫備兵ノ儀徵兵令第十三條ニ據リ毎年技藝復習ノ爲メ召集可致ノ處來十八年ハ召集不致點呼ノニ後備兵點呼同時ニ施行可致此旨相達候事

但後備兵復習ノ儀ハ追テ何分相達候迄從前ノ通施行セサル儀ト心得ヘシ

○陸軍省達甲第貳拾六號府縣(根室札幌沖達同 十七年 六月十九日 三縣ヲ除ク)

左之通各鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

各鎮臺

明治十五年徵集致候現役兵ノ内殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ナル者ヲ撰ミ徵兵令第十二

○徵兵令改正ニ付種々ノ取扱方

布達達類

條ニ據リ步兵騎兵工兵ハ一中隊ニ三人砲兵ハ一中隊ニ貳人輜重兵ハ一小隊ニ貳人ノ割ヲ以テ本年新兵入營以前ニ歸休可申付此旨相達候事

但歸休ノ撰ニ當ル者ト雖ヒ在營希望ノ者ハ其望ニ任スベシ

○指令之部

○埼玉縣伺 明治十七年一月十二日

徵兵令改正ニ付客年^{十二}御省達甲第四拾四號御達ノ趣モ有之候處昨十六年適齡則チ本年ニ於テ徵集スヘキ者ノ中家事ノ都合ニ依リ免役料上納國民軍ノ外免役出願致度旨申出候者有之右ハ新令御發令後ニ罹ルト雖ヒ舊令ニ依リ徵集セラルヘキ者ナレハ舊令第六十五條ノ手續ヲ以テ出願致候ハ、御採用可相成哉至急何分ノ御指揮相仰候也

○陸軍省指令 一月十九日

伺之通

○千葉縣伺 同十七年一月十一日

改正徵兵令第二十二條第七項ハ改正前後ノ區別ナキ哉若シ區別ナシトセハ十二年十月廿七日以前ニ溯ルヤ

○陸軍省指令

本月十一日電報改正徵兵令第二十二條第七項ハ改正前後ノ區別ナキ哉云々伺ノ儀伺之通十七年一月以後ニ十歳トナル者ハ總テ新令ニ據リ處分スル儀ト心得ヘシ

○大坂府伺 同十七年一月廿一日

今般徵兵令改正ニ付猶豫徵集ノ區分ハ發令ノ日ヲ以テ分界トシ譬ヘハ新舊令ヲ對照シ舊令ニテ免役ニ相當スル戶主新令ニテ徵集部分ニ入ルモ廿八日以前ニ係ル者ハ新令第十七條第五項ニ依リ猶豫ニ屬スヘキ哉無論ト存候得共爲念相伺候ニ付至急電報ニテ御指令アリタシ

○陸軍省指令 一月廿四日

○徵兵令改正ニ付種々ノ取扱方

指令類

七十九

去廿一日電報徵兵令改正ニ付猶豫徵集ノ區分伺右ハ十七年一月以後滿二十歳トナル者ヨリ新令ヲ適用スルヲ以テ假令舊令ニテ免役ニ相當スル戶主ト雖モ新令ニテ徵集部分ニ入ル者ハ發令ノ前後ヲ論セズ徵集スヘキ儀ト心得ヘシ

○栃木縣伺 同 十七年 一月十四日

昨十六年太政官第四十六號改正徵兵令御布告相成候處同年御省甲第四十四號ヲ以テ十七年徵集ス可キ者ハ舊令ニ依リ徵集致シ新令第十條其他各條ニ當ル事項ハ十八年徵集スヘキ者ヨリ實施致候儀云々御達相成候ニ付テハ本年即チ十七年徵集適齡者除役免役及猶豫等ハ勿論諸名簿整頓後檢査時限中ニ係ル徵員身上異同ノ處分並ニ免役料上納願等ニ至ル迄總テ舊令ニ依リ取扱候儀ト相心得可然哉

○陸軍省指令 一月廿二日

伺之通

○岡山縣伺 同 十七年 一月十六日

今般御省達甲第一號ヲ以テ徵兵使巡行期限ノ儀御達相成候ニ付テハ舊徵兵令第二十二條第三十四條ニ揭示有之檢査時限ハ六月十日ヲ以テ區分相立候儀ト相心得可然哉

○陸軍省指令 一月廿六日

伺之趣四月十日ヲ以テ區分スヘキ儀ト可心得事

○德島縣伺 同 十七年 一月廿八日 (電報)

常備兵在營中家計ニ止ムヲ得サル事故ヲ生シ歸休又ハ免役ヲ出願ノ者取扱方徵兵令改正後モ舊徵兵事務條例第百二十一條ノ手續ニ準シ取扱可然哉電信ヲ以テ御指揮ヲ乞

○陸軍省指令 同 十七年 二月四日 (電報)

去月二十八日電報常備兵在營中家事故障ニ由リ歸休又ハ免役出願ノ者取扱伺之儀伺之通

○岡山縣伺 同十七年一月廿八日 (電報)

改正徵兵令第十七條第三項(戸主年滿六十以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫)ニ養子養孫ハ含蓄セサルヤ若シ含蓄セサル時ハ相續人ハ如何心得ヘキ哉且同令改正前戸主トナル者ハ父六十歳未滿ナルモ猶豫ニ屬スル哉併セテ御指揮アリタシ

○陸軍省指令 同十七年二月六日 (電報)

去月廿八日電報伺前段改正徵兵令第十七條第三項ハ養嗣子養承祖ノ孫モ含蓄ス中段相續人ハ猶豫ニ屬セヌ後段十七年一月以後滿二十歳トナル者ハ戸主トナルノ日改正前後ヲ問ハス總テ新令ニ據リ處分スル儀ト心得ヘシ

○岩手縣伺 同十七年四月廿三日 (電報)

先入兵相當ノ者檢査ニ先ヲチ札幌縣下へ轉籍スルキハ舊住地ニ呼ヒ戻シ檢査スヘキ哉將タ免役ニ屬スルヤ宜ク御指揮ヲ乞

○陸軍省指令 同十七年五月十六日

客月廿三日電報伺先入兵ニテ札幌縣下へ轉籍ノ者ハ最寄徵兵施行ノ府縣ニ於テ徵集スヘキ儀ト心得ヘシ

第八章 七軍管疆域

○太政官第十三號官省院達明治十七年
聽府縣達一月三十一日

七軍管疆域左表ノ通改定候條此旨相達候事

但軍管疆域ニ關シ左表ニ矛盾スルモノハ總テ廢止ト心得ベシ

七軍管疆域表

軍管	鎮臺	師管	營所	分營	陸海要塞	管國郡區
第一	東京	第一	東京	高崎		武藏 <small>十四區</small> 相模 甲斐 伊豆 上野 信濃 九郡 武藏 <small>木所深川二區</small> 南北葛飾 安房 <small>南北埼玉四郡</small> 上總 下總 常陸 下野
第二	佐倉	第二				

第一	仙臺	第二	臺	第三	仙臺	陸前 <small>仙臺區</small> 磐城 柴田 二郡
第三	名古屋	第四	青森	第五	名古屋	岩代 羽前 越後 佐渡
第六	金澤	第六		第七	金澤	陸前 <small>十二郡</small> 陸中 陸奥 羽後
第七	大坂	第八	大津	第九	大坂	尾張 <small>一區</small> 遠江 三河 駿河 信濃 <small>東西筑摩</small> 南北安曇 諏訪七郡 伊勢 志摩 紀伊 <small>南北牟婁二郡</small>
第十	大津	第十一		第十二	大津	尾張 <small>東西春日井</small> 美濃 飛驒 加賀 能登 越中 越前
第十三	大津	第十四		第十五	大津	攝津 <small>東西南北四區</small> 紀伊 <small>一區</small> 東成住吉二郡 八郡
第十六	大津	第十七		第十八	大津	山城 大和 河内 和泉

四	坂	第八第	姫路	攝津 十一郡	播磨	淡路
第	廣	第九第	廣島	若狹	丹波	丹後
五	島	第十第	松山 丸龜	因幡	伯耆	美作
第	熊	第十一第	熊本	安藝	備後	備中
六	本	第十二第	小倉 福岡	石見	周防	長門
				肥後	日向	大隅
				沖繩		薩摩
				豐前	豐後	筑前
				肥前	壹岐	對馬
				渡島	後志	石狩
				北見	膽振	日高
				釧路	根室	十勝
					千島	

第七第 備考

本表中空位ノ部分ハ追テ撰定ス可キモノトス

〇陸軍省甲第八號府縣達全十七年二月五日

今般七軍管疆域御改正ニ付丸龜營所ヲ松山ニ被移候處追而相達候迄松山營所事務ノ儀ハ於丸龜表取扱候條爲心得此旨相達候事

〇陸軍省甲第十一號府縣達全十七年二月十四日室ノ三縣ヲ除ク

今般軍管疆域改正相成候ニ就テハ從來甲軍軍管ノ豫備兵後備兵ニシテ新ニ乙軍管ノ管轄ニ屬スヘキ者ハ其兵籍ヲ交互受送可致ノ處軍隊編制上ノ都合有之ニ付豫備兵ノ兵籍ハ本年七月迄ハ依然甲軍管ニ存シ置キ其復習召集臨時召集及各自ノ請願届等ノ

○七軍管疆域

八十八

儀ハ總テ後備軍司令部條例第二十七條第二十八條ニ準シ取扱同月ニ至リ其兵籍交互
受送可致此旨相達候事

○陸軍省甲第拾貳號府縣(沖繩)札幌根達同十七年
室ノ三縣ヲ除ク二月廿二日
左之通各鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

陸軍卿西郷從道

各 鎮 臺

今般軍管疆域改正相成候ニ付テハ甲軍管現役中ノ諸兵ニシテ身元新タニ乙軍管ニ属
スル者取扱方左之通可相心得此旨相達候事

一第一軍管ニ於テハ越後佐渡兩國ヨリ十五年十六年徵集セシ歩兵ノ内新發田屯在ノ
者四百三拾四名及同高崎屯在ノ者二百七名ハ今年七月ニ至リ第二軍管へ編入シ其
餘ノ者ハ現役滿期マテ第一軍管ニ据置キ豫備役ニ移ルトキ第二軍管ニ編入スベシ
又駿河國ヨリ十五年十六年徵集セシ歩兵ハ現役滿期マテ第一軍管ニ据置キ豫備役

ニ移ルトキ第二軍管ニ編入スベシ

一第四軍管ニ於テハ伊勢志摩及紀伊南北卒
堤那ヨリ十五年十六年徵集セシ歩兵ノ内大津

伏見屯在ノ者四百八十四名ハ本年七月ニ至リ第三軍管ニ編入シ其餘ノ者ハ現役滿
期マテ第四軍管ニ据置キ豫備役ニ移ルトキ第三軍管ニ編入スベシ

又隱岐國ヨリ十五年十六年徵集セシ歩兵ニシテ大坂姫路等ニ屯在ノ者ハ現役滿期
マテ第四軍管ニ据置キ豫備役ニ移ル時第五軍管ニ編入スベシ

又従前第五軍管ヨリ補欠トシテ十五年十六年第四軍管ニ編入セシ歩兵百貳拾三名
ハ本年七月ニ至リ第五軍管ニ返シ歸休セシメ其餘ノ者ハ現役滿期マテ第四軍管ニ
据置キ豫備役ニ移ルトキ第五軍管ニ編入スベシ

一砲兵工兵輜重兵看病卒ハ總テ現役滿期マテ甲軍管ニ据置キ豫備役ニ移ルトキ乙軍
管ニ編入スベシ

○陸軍省甲第十三號東京名古屋西
鎮臺管下府縣明治十七年
二月廿八日

○七軍管疆域

八十九

別紙ノ通東京名古屋兩鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

陸軍卿西郷從道

別紙

東京鎮臺

今般軍管疆域改正相成隨テ軍隊編制ノ都合有之候ニ付テハ其臺管下現役輜重兵ノ内本年七月ニ於テ十五年十六年徵集ノ者各五名ヲ府縣ニ平均シ未番號ノ者ヨリ歸休可申付此旨相達候事

但舊徵兵事務條例第百二十條ニ依リ歸休ノ者同様可取扱事

名古屋鎮臺

今般軍管疆域改正相成隨テ軍隊編制ノ都合有之候就テハ其臺管下現役歩兵ノ内本年七月ニ於テ十五年徵集ノ者ハ十三名十六年徵集ノ者ハ十二名ヲ各縣ニ平均シ未番號ノ者ヨリ歸休可申付此旨相達候事

但舊徵兵事務條例第百二十二條ニ據リ歸休ノ者同様可取扱事

○陸軍省甲第十四號府縣(沖繩札幌)同十七年
室ノ三縣ヲ除ク達 二月廿九日

左之通各鎮臺へ相達候條爲心得此旨相達候事

各鎮臺

今般軍管疆域改正相成候ニ付テハ府縣駐在所ノ位置左之通追加改定候條此旨相達候事

明治十七年二月廿八日

陸軍卿西郷從道

- 一 第一軍管第一師管ニ屬スル静岡縣駐在所駿河國静岡ヲ伊豆國君澤郡三島ニ改メ又郡駐在官一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ伊豆全國ヲ管轄セシム
- 一 同第二師管ニ屬スル東京府ニ駐在官一名書記一名ヲ置キ武藏國本所區ヲ駐在所トシ又區駐在官一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ本所區深川區南葛飾郡ヲ管轄セシム
- 一 同第二師管ニ屬スル埼玉縣ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ武藏國北葛飾郡杉戸ヲ駐在所トシ又郡駐在官一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ南埼玉郡北埼玉郡北葛飾郡中

○七軍管疆域

葛飾郡ヲ管轄セシム
 一第二軍管第四師管ニ属スル宮城縣ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ陸前國志田郡古川ヲ駐在所トス
 一第四師管ニ属スル陸前國加美郡黒川郡宮城郡ハ志田郡古川駐在所ノ管轄ニ属セシム
 一第四師管ニ属スル山形縣ニ縣駐在官一名ヲ置キ羽後國酒田ヲ駐在所トシ又都駐在官一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ飽海郡ヲ管轄セシム
 一第三軍管第五師管ニ属スル靜岡縣駐在所遠江國濱松ヲ駿河國靜岡ニ改ム
 一第五師管ニ属スル愛知縣ニ郡駐在官一名ヲ增シ尾張國海東郡津島ヲ駐在所トシ業栗郡中嶋郡海東郡海西郡ヲ管轄セシム
 一第六師管ニ属スル愛知縣ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ尾張國西春日井郡批把島ヲ駐在所トス

一第四軍管第七師管ニ属スル三重縣ニ縣駐在官一名書記一名ヲ置キ伊賀國阿拜郡上野ヲ駐在所トス
 一同八師管ニ属スル大坂府ニ府駐在官一名書記一名ヲ置キ攝津國西成郡曾根崎ヲ駐在所トシ又郡駐在官一名ヲ置キ同所ヲ駐在所トシ西成郡島上郡島下郡豐島郡能勢郡ヲ管轄セシム

○陸軍省達甲第十六號府縣(沖繩札幌根室ノ三縣ヲ除ク)達同十七年三月八日

本年第二號布告ヲ以テ栃木縣廳位置ヲ下野國河内郡宇都宮ニ改定相成候ニ付テハ該縣駐在所位置下野國栃木ヲ同國宇都宮ニ改定候條此旨相達候事

○陸軍省第壹號告示明治十七年二月十五日

本年徵兵各軍管ニ於テ左表記載ノ人員致徵集候條此旨告示候事

明	軍管		第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七	計
	兵種	兵								
治	歩	兵	千七百十七	千六百四十七	千五百九十五	千七百〇二	千四百五十五	千五百二十三	〃	九千五百三十九

○七軍管疆域

計	表員人集徵兵役現年七十				
	看 病 卒	輜 重 輪 卒	輜 重 兵	工 兵	砲 兵
七百二十	二千五百	二十	九十九	五百二十	二百四
四百三十三	二千五百	二十	四十五	百十九	〃
四千三百三十七	二千五百	二十	四十五	八百二十	〃
四千四百九十二	二千五百	十九	八十九	百二十	〃
四千九百九十五	二千五百	二十一	四十四	八百二十	〃
四千二百二十八	二千五百	十八	九十七	百三十	〃
〃	〃	〃	〃	十八	〃
四千四百八十	一千九百五十四	一百十八	四百九	七百六	二百四

考 一 徵兵ハ第六軍管ノ内沖繩縣ニ之ヲ行ハス第七軍管ニ於テハ函館江差福山ノ三ヶ所ヲ限り之ヲ行フ

備 一 表中歩騎砲工兵ノ鎮臺所要人員ニ超過スルモノハ近衛兵ニ撰拔スヘキ人員トス

一 補充員ノ數ヲ示サ、ルモノハ徵兵令第二十九條ニ依リ徵集スルヲ以テナリ

七軍管兵備表

陸軍省報告

陸軍省ニ於テ五月廿四日ヲ以テ七軍管兵備表ヲ左ノ通改正シタリ (官報抄録)

管師	軍管							戰列	軍備	軍備	軍備
	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七				
師管	第一旅	第二旅	第三旅	第四旅	第五旅	第六旅	第七旅	步兵	軍備	軍備	軍備
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	騎兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	砲兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	工兵			
師管	第一旅	第二旅	第三旅	第四旅	第五旅	第六旅	第七旅	步兵	軍備	軍備	軍備
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	騎兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	砲兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	工兵			
師管	第一旅	第二旅	第三旅	第四旅	第五旅	第六旅	第七旅	步兵	軍備	軍備	軍備
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	騎兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	砲兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	工兵			
師管	第一旅	第二旅	第三旅	第四旅	第五旅	第六旅	第七旅	步兵	軍備	軍備	軍備
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	騎兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	砲兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	工兵			
師管	第一旅	第二旅	第三旅	第四旅	第五旅	第六旅	第七旅	步兵	軍備	軍備	軍備
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	騎兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	砲兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	工兵			
師管	第一旅	第二旅	第三旅	第四旅	第五旅	第六旅	第七旅	步兵	軍備	軍備	軍備
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	騎兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	砲兵			
	第一聯隊	第二聯隊	第三聯隊	第四聯隊	第五聯隊	第六聯隊	第七聯隊	工兵			

三	第 五	第 四	第 三	第 二	第 一	管 軍	
						旅 團	本 部
第 六	第 五	第 四	第 三	第 二	第 一	第 一	兵 步
金 澤	名 古 屋	青 森	仙 臺	佐 倉	東 京	東 京	
第 十 九	第 十 八	第 十 七	第 十 六	第 十 五	第 十 四	第 十 三	兵 騎
名 古 屋	豐 橋	仙 臺	青 森	新 發 田	仙 臺	東 京	
第 三	第 二	第 一	第 一	第 一	第 一	第 一	兵 砲
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 工
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 輜重
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 屯營
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 輜重
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 輜重
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 輜重
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 輜重
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 輜重
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 輜重
第 三	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	第 二	兵 輜重

諸兵配備表

陸軍省報告

陸軍省ニ於テ十七年五月廿四日諸兵配備表ヲ左ノ通相定メタリ

考 備	計	七 第		六 第		五 第		
		第 十	第 九	第 十	第 九	第 十	第 九	
<p>一 要砲兵ハ其編制未タ確定セサルヲ以テ姑ク之ヲ闕ク</p> <p>一 補充隊ノ隊号ハ其本隊ノ稱ニ從フヲ以テ取シテ示サス</p> <p>一 此外尙憲兵及ヒ函館砲隊アリト雖モ之ヲ省ク</p> <p>一 第七軍管ノ兵備ハ未タ確定セサルヲ以テ之ヲ記セス</p>	<p>十二旅團</p> <p>二十四聯隊</p>	第 十	第 九	第 十	第 九	第 十	第 九	
		隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 五	隊 聯 五	隊 聯 五
		隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 五	隊 聯 五	隊 聯 五
		隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 五	隊 大 五	隊 大 五
		隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 五	隊 大 五	隊 大 五
		隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 五	隊 大 五	隊 大 五
		隊 中 六	隊 中 六	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一
		隊 中 六	隊 中 六	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一
		隊 中 六	隊 中 六	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一
		隊 中 六	隊 中 六	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一	隊 中 一
		隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 五	隊 聯 五	隊 聯 五
		隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 六	隊 聯 五	隊 聯 五	隊 聯 五
隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 五	隊 大 五	隊 大 五		
隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 六	隊 大 五	隊 大 五	隊 大 五		

第 七		第 八		第 九		第 十		第 十 一		第 十 二	
大坂		姫路		廣島		松山		廣島		小倉	
第 八	第 九	第 十	第 十 一	第 十 二	第 十 三	第 十 四	第 十 五	第 十 六	第 十 七	第 十 八	第 十 九
大坂	大津	姫路	大坂	廣島	廣島	松山	松山	龜	熊本	熊本	熊本
第 四			第 五			第 六			第 七		
第 四			第 五			第 六			第 七		
第 四			第 五			第 六			第 七		
第 四			第 五			第 六			第 七		
第 四			第 五			第 六			第 七		
大坂			廣島			熊本			熊本		

第五類 改徵兵事務條例

○太政官第十八號布達 明治十七年七月十九日

徵兵事務條例別冊ノ通相定ム

右布達候事

別冊

徵兵事務條例

太政大臣 三條 實美
 陸軍卿 西鄉 從道
 海軍卿 川村 純義

徵兵事務條例

(目錄)
(省略)

第一章 徵兵事務官及其職掌

第一條 徵兵事務官ハ左ノ如シ

- 一 鎮臺後備軍司令官
- 二 營所後備軍司令官
- 三 府縣駐在官
- 四 郡區駐在官
- 五 醫官
- 六 府知事縣令
- 七 府縣兵事課長
- 八 郡區長

第二條 鎮臺後備軍司令官ハ其軍管內徵兵ノ事ヲ掌ル

第三條 營所後備軍司令官ハ其師管內徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵署ヲ巡行シ兵種ノ撰定簿冊ノ審査兵役免除ノ處分ヲ爲シ徵集猶豫ニ係ル者ハ府知事縣令ト商議シ之ヲ裁決ス但鎮臺所在地ニハ營所後備軍司令官ヲ置カサルヲ以テ鎮臺後備軍司令官其職掌ヲ兼攝スルモノトス

第四條 府縣駐在官ハ其府縣內徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際醫官及ヒ府縣兵事課長ト共ニ徵兵檢査所ヲ巡行シ壯丁檢査ノ事ヲ掌ル

第五條 郡區駐在官ハ其郡區內徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調查ノ事ヲ掌ル

第六條 醫官ハ毎年新兵徵集ノ際一等軍醫以下軍醫試補以上ヲ以テ之ニ充ツ

一等軍醫ハ後備軍司令官ニ從ヒ府縣徵兵署ヲ巡行シ壯丁ノ身材骨格兵役ニ適スルヤ否ヲ檢査スルコトヲ掌ル

二等軍醫以下軍醫試補以上ハ府縣駐在官ト共ニ徵兵檢査所ヲ巡行ス其職掌一等軍醫ニ同シ

第七條 毎年新兵徵集ノ際前諸條官員ノ外海軍將校ヲシテ後備軍司令官ノ事務ニ參セシムルコトアル可シ

第八條 府知事縣令ハ管內徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際府縣徵兵署ニ於テ後

備軍司令官ト商議シ徵集猶豫ノ裁決ヲ掌ル

第九條 府縣兵專課長ハ其府縣内徵兵ノ事務ヲ整理シ又毎年新兵徵集ノ際府縣駐在官ト共ニ徵兵検査所ヲ巡行シ検査ノ事務ヲ補助ス

第十條 郡區長ハ郡區内徵兵ノ事ヲ掌リ又毎年新兵徵集ノ際名簿調製ノ事ヲ掌ル

第十一條 毎年新兵徵集ノ際師管徵兵區ノ諸記録ハ後備軍司令部書記ヲシテ之ヲ掌ラシム

検査及ヒ抽籤ノ筆記ハ筆生ヲシテ之ヲ掌ラシメ身體検査ノ記録ハ地方醫員ヲシテ之ヲ掌ラシメ又身體検査ノ補助ヲ爲サシムルコトアル可シ

醫員筆生ハ府知事縣令ノ撰ヲ以テ命スルモノトス

第十二條 徵集猶豫ノ事ニ係リ後備軍司令官ト府知事縣令ト商議整ハサルトキハ各其事由ヲ具シ陸軍卿ニ伺出可シ但後備軍司令官ハ其所管長官ヲ經由ス可シ

第二章 徵兵検査所及ヒ徵兵署

第十三條 壯丁ノ検査ヲ施行スル爲メ府縣管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ集合便宜ノ地ヲ撰ミ若干ノ徵兵検査所ヲ設ク可シ

第十四條 各府縣徵兵區ニ於テ其事務ヲ整理スル爲メ毎年新兵徵集ノ期ニ先チ府縣廳所在ノ地又ハ管内便宜ノ地ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ但一府縣ノ管地兩師管ニ分屬スルモノハ每師管ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可シ

第十五條 徵兵検査所及ヒ徵兵署ハ毎年新兵徵集中開クモノニシテ該事務竣レハ之ヲ閉ツ可シ

第三章 各自届出

第十六條 徵兵令第三十四條國民軍入ノ届書ハ第一書式第三十五條徵兵適齡ノ届書ハ第二書式第二十六條徵兵年齡ノ届書ハ第三書式ニ據リ之ヲ認メ戶長ニ差出ス可シ但第三十五條ノ届書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

一 徵兵令第七條重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ當ル者ハ刑名宣告書寫

○改正徵兵事務條例

各自届出

百〇四

二 徵兵令第十七條第一項(兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内)第二項(現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者)ニ當ル者ハ事由ヲ記シタル詳細書第二項(戸主年齢六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫)第

五項(主)ニ當ル者ハ第四書式ノ事由書及ヒ戸籍寫第四項(戸主廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ム

子或ハ承祖ノ孫)并ニ同令第二十二條ノ諸項ニ當ル廢疾不具等ニシテ一家ノ

生計ヲ營ムコト能ハサル爲メ徵集猶豫ニ關スル者ハ事由ヲ記シタル詳細書

及ヒ第五書式ノ醫師診斷書并ニ同部區内現役兵ノ戸主タル者二人以上ノ保

證書及ヒ戸籍寫重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ刑名宣告書寫

三 徵兵令第十八條第一項(改正ノ職ニ在ル者)ニ當ル者ハ辭令書寫第二項(官立府縣立學校ノ卒業證書ヲ所持シテ教員者)ニ當ル者ハ卒業證書寫及ヒ辭令書寫第三項(官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒)第四項(陸海軍生徒)ニ當ル者ハ學校長若クハ所屬長ノ證明書第七項(學術修業ノ爲メ外ニ當ル者ハ地名校名及ヒ修業ノ學科并ニ入校ノ年月日等記載ノ書及ヒ公使又ハ領事ノ證明書第八項(禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人トナリ裁判未決ノ者)ニ當ル者ハ檢察官ノ證明書第

九項(公權停止ノ中ノ者)ニ當ル者ハ刑名宣告書寫

四 徵兵令第十九條(官立府縣立學校ニ於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒業シタル生徒ハ六箇年以内徵集ヲ猶豫ス)ニ當ル者ハ學科并ニ等級ヲ記シタル學校長又ハ所屬長ノ證明書

五 徵兵令第二十一條(官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコトアルベシ)ニ當ル者ハ決裁書ノ寫

第十七條 各自届出ヲ爲スニ當リ戸主旅行又ハ外國寄留等ニテ届出ヲ爲ス能ハサルトキハ本人又ハ親族ノ者ヨリ届出可シ

第十八條 各自届出ヲ終ルノ後抽籤ノ前他ノ府縣ニ轉籍スル者ハ三日以内ニ舊住地新住地雙方ノ戸長ニ届出可シ

第四章 下調

第十九條 毎年九月一日以前戸長ハ各自届出ヲ爲ス可キ者ヲシテ徵兵令第三十四條(國民兵入)第三十五條(徵兵適齡)第二十六條(徵兵異動)ノ届出ヲ怠ラシメサル様注意ス

○改正徵兵事務條例 下調 百〇五

可シ

第二十條 戶長届書ヲ領收セハ其町村ノ戶籍ニ照シ届洩ノ者ナキヤ否ヲ調査シ國民兵入籍者ト徵兵相當者トヲ分テ徵兵相當者ノ各自姓名ノ頭ニ記載シタル箇條并ニ事由書或ハ證書等相違ナキヤ否ヲ審査シ其届書ニ署名押印シ更ニ徵兵令第七條(重罪ノ刑ニ處セラル者)第十七條(徵集ヲ猶豫スル項目)第十八條(事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫スル項目)第十九條(官立府縣立學校ニ於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒業シタル生徒ハ六箇年)第二十一條(官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代官ニ當ル者ト檢査ヲ受ク可キ者ト)區別シ國民兵入籍者ノ届書ト共ニ書類目錄ヲ添ヘ毎年九月二十五日迄ニ郡區長ニ差出ス可シ但徵兵令第三十五條但書(二十歳未満ニテ現ニ當ル者ハ戶長之ヲ調査シ其族職業氏名住所誕生年月日及ヒ隊號ヲ記シ本條ノ書類ト共ニ郡區長ニ差出ス可シ)

第二十一條 戶長ハ檢査ヲ受ク可キ者ノ戶籍ニ基キ人別表第六式ニ葉ヲ製シ各自届書ト共ニ郡區長ニ差出ス可シ但人別表用紙ハ各自届出ノ季節ニ先チ府縣廳ヨリ之ヲ

下付ス可シ

第二十二條 各自届出ノ後身上ノ異動ヲ届出ルトキハ戶長之ヲ調査シ三日以内ニ郡區長ニ差出ス可シ

第二十三條 郡區長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ各自届書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ點檢シ然ル後壯丁名簿第七式及ヒ壯丁異動名簿第八式ヲ製シ卷末ニ署名押印シ各自届書人別表其他諸書類ト共ニ十月十五日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ

第二十四條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿并ニ諸書類ヲ點檢シ其郡區内ノ壯丁中遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ又人別表備考區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ覈査シ訂正加書シ然ル後名簿ノ卷末ニ署名押印シ諸書類ト共ニ郡區長ニ返付ス可シ

第二十五條 郡區長ハ郡區駐在官ヨリ返付スル所ノ名簿ニ各自届書人別表其他諸書類ヲ添ヘ十月二十五日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ

第二十六條 壯丁名簿調製ノ際郡區長ハ人別表備考區畫ニ記載スル件々ノ適否ヲ駁查シ訂正加書ス可シ

第二十七條 寄留地ニ於テ徵集ニ應シ又ハ檢査ヲ受ケント欲スル者ハ該部内ノ者ト混セサル爲メ他府縣ヨリ寄留ノ部ト題シ本籍地ニ於テハ他府縣ニ寄留ノ部ト題シ之ヲ別簿ニ作ル可シ

第二十八條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿整頓前第二十二條(前條)ニ據リ身上ノ異動届書ヲ戶長ヨリ差出ストキハ之ヲ調査シ名簿ヲ訂正ス可シ若シ名簿整頓後ニ係ルトキハ府縣廳又ハ徵兵署或ハ檢査所ニ送ル可シ但徵兵令第三十四條(國民兵入)ノ各自届出後身上異動ノ届書ハ三日以内ニ府縣廳ニ差出ス可シ

第二十九條 他府縣ニ籍ヲ轉スルノ異動届書ハ郡區長ヨリ府縣廳ニ差出シ該廳ヨリ新任地府縣廳ニ通牒ス可シ

第三十條 郡區長ハ壯丁名簿壯丁異動名簿等ヲ府縣廳ニ差出シタル後國民兵入籍者

ノ届書ニ據リ國民兵名簿第九書式ヲ調製シ卷末ニ署名押印シ各自届書ト共ニ十月二十日迄ニ之ヲ郡區駐在官ニ送致ス可シ

第三十一條 郡區駐在官ハ郡區長ヨリ送致スル所ノ名簿ヲ點檢シ其郡區内ノ國民兵入籍者ノ遺漏或ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後卷末ニ署名押印シ郡區長ニ返付シ郡區長ハ各自届書ト共ニ十一月十日迄ニ之ヲ府縣廳ニ差出ス可シ

第五章 徵員配當

第三十二條 毎年徵集ス可キ陸軍新兵ノ員數ハ海軍卿之ヲ告示シ海軍新兵ノ員數ハ海軍卿之ヲ告示ス可シ

第三十三條 鎮臺司令官ハ其告示ニ基キ後備軍司令官ヨリ差出ヌ所ノ人員ヲ率トシ軍管徵集人員配當表第十書式ヲ作り之ヲ陸軍省ニ開申シ又管内府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ府縣廳ニ於テハ之ヲ管内ニ告示ス可シ

第六章 檢査準備

第三十四條 府縣廳ニ於テハ毎年十一月一日ヨリ徵兵署ヲ開設シ府縣駐在官醫官府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生出頭シ徵兵検査ノ準備ヲ爲ス可シ

第三十五條 府縣廳ニ於テハ各自届書人別表其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審査シ戸籍帳ト照較シ遺漏又ハ差違ナキヤ否ヲ調査シ然ル後徵兵署ニ送致ス可シ

第三十六條 府縣駐在官ハ府縣廳ヨリ徵兵署ニ送ル所ノ諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ調査シ又壯丁名簿壯丁異動名簿中徵集ニ應ス可キ者ノ總人員ヲ營所後備軍司令官ニ差出ス可シ但營所後備軍司令官ハ之ヲ一師管ニ取經メ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ呈ス可シ

第三十七條 府縣駐在官ハ前條書類調査ノ後府縣兵事課長ト商議シ管地ノ廣狹及ヒ壯丁ノ多寡ニ應シ検査所并ニ巡回日割ヲ定メ其表面第十一書式ヲ製シ後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ府縣兵事課長ハ府知事縣令ニ之ヲ開申ス可シ

第三十八條 検査所并ニ巡回ノ日割已ニ定マルトキハ府縣廳ヨリ郡區長及ヒ戶長ニ

達シ戶長ハ之ヲ其町村内検査ヲ受ク可キ者ニ達シ置キ徵集ノ日時ニ至レハ壯丁ヲ引繼メ指定ノ場所ニ出頭ス可シ

第三十九條 府縣兵事課長ハ徵兵署ニ於テ筆生ヲシテ人別表ニ基キ検査表第十二書式ヲ製セシメ検査ノ席ニ備ヘ置ク可シ但検査表用紙ハ検査ノ季節ニ先チ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第四十條 壯丁中疾病處刑又ハ逃亡失踪等ニテ検査所ニ出頭セサル者アルトキハ戶主或ハ親族ノ者ヨリ逃亡失踪等ノ者ハ其事由書ニ戶長ノ與書證印憲兵部若クハ警察署ノ證認ヲ受ケ疾病ノ者ハ醫師ノ診斷書第五書式處刑中ノ者ハ刑名宣告書寫ヲ以テ郡區長ヲ經テ徵兵検査所ニ届出可シ但起居自在ナラサル疾患ニシテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ其家ニ就キ之ヲ検査シ若クハ他ノ検査所ニ出頭セシムル等府縣駐在官府縣兵事課長商議シテ之ヲ處分ス可シ

第四十一條 徵兵検査所ニ於テ領收スル所ノ諸届届書ハ府縣駐在官府縣兵事課長ト

商議シ之ヲ處分シ壯丁名簿壯丁異動名簿ニ訂正ヲ加ヘ若シ處分スルコト能ハサルモノ或ハ成規外ニ係ルモノハ意見書ヲ添ヘ之ヲ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

第七章 検査

第四十二條 検査ハ概テ十一月十日ヨリ始メ第三十四條(前條)ニ掲クル所ノ諸員徵兵検査所ヲ巡行シ其事務ヲ調理ス

第四十三條 戸長ヨリ検査ノ達ヲ受ケタル者ハ戸長ニ從ヒ指定ノ日時ニ其場所ニ出頭シ府縣駐在官府縣兵事課長ノ面前ニ於テ身體ノ検査ヲ受ク可シ

第四十四條 身體検査ヲ爲ストキハ郡區駐在官郡區長列席シ郡區駐在官ハ壯丁名簿壯丁異動名簿中徵集ノ部ニ記載シタル順序ニ壯丁ヲ呼出シ醫官ハ徵兵検査規則ニ據リ體格ヲ検査シ合格ノ者ハ更ニ其體格ノ等位ヲ區別ス不合格ノ者及ヒ身幹四尺九寸未滿ノ者ハ地方醫員ヲシテ之ヲ検査表ニ記註セシメ醫官之ニ捺印シテ府縣駐在官ニ差出ス可シ但四尺九寸未滿ノ者及ヒ不合格者ノ骨相ハ検査表ニ記註スルヲ要セス唯其尺度并ニ骨相ノ部ニ主任ノ醫員捺印ス可シ

第四十五條 壯丁ノ身體検査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ人別表ニ據リ本人ニ姓名住所族職業父兄ノ姓名等相違ナキヤ否ヲ尋問ス可シ

第四十六條 人別表調査ノ後府縣駐在官ハ検査表ニ據リ筆生ヲシテ人別表中身幹尺度ノ區畫ニ各自ノ寸尺ヲ記註セシメ又疾病缺損又ハ身幹四尺九寸未滿ノ者ノ備考區畫ニハ何ノ事故ニ付徵集猶豫、疾病、缺損ニ付除役等其要領ヲ記註セシム可シ

第四十七條 壯丁中癩癘、狂病、白痴、夜盲、聾、啞、遺尿、等ノ如キ疾病アリ其狀ヲ申告セソトスル者ハ平素其病狀ヲ熟知スル近隣ノ戸主二人以上ノ證書ヲ添テ検査所ニ申出可シ醫官ニ於テ相違ナシト認定スルトキハ之ニ奧書證印ス可シ若シ認定スルコト能ハサルトキハ府縣駐在官ニ致ス可シ駐在官ハ之ヲ徵集ノ部ニ加フ可シ

第四十八條 壯丁ノ身體検査終ル毎ニ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ合格又ハ不合格或ハ徵集猶豫ノ要領ヲ壯丁名簿壯丁異動名簿中ノ各自姓名ノ頭ニ記註ス可シ

第四十九條 身體検査終リタル後郡區長ハ合格者ヲシテ抽籤總代人ヲ撰ビシテ其姓名住所ヲ府縣兵事課長ニ通牒ス可シ

第五十條 府縣駐在官ハ人別表備考區書ヲ案シ訂正ヲ加フ可キモノハ之ヲ加ヘ醫官ニ謀リ身體最モ健全ニシテ近衛兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區書ニ近衛同兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

第五十一條 府縣駐在官ハ壯丁ノ職業ニ注意シ海軍兵ニ適當スト思考スルモノハ人別表備考區書ニ海軍何兵適當ノ文字ヲ記註ス可シ

第五十二條 府縣駐在官ハ合格者ノ人別表及ヒ検査表ニ照シ各自ノ身材懸能職業ニ應シ添メ兵種ヲ區別ス可シ

第五十三條 近衛諸兵ハ總テ品行方正ニシテ且體格最健全ナル者ヨリ之ヲ撰フ可シ其身幹砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵ハ五尺三寸以上ノ者タル可シ

第五十四條 鎮臺ニ屬スル諸兵ノ身幹砲兵ハ五尺五寸以上歩兵騎兵工兵輜重兵ハ五尺三寸以上ノ者タル可シ若シ不足スルトキハ砲兵ハ五尺四寸以上歩兵騎兵工兵輜重兵ハ五尺二寸以上ノ者ヲ以テ之ニ充テ仍ホ不足スルトキハ臨時其定尺ヲ減スルコトアル可シ

第五十五條 陸軍雜卒又ハ職工トシテ徵集スル者ハ身幹五尺以上ニシテ雜卒又ハ職工ノ勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シト雖モ若シ所要ノ人員不足スルトキハ其體格五種兵ニ並ク者又ハ身幹四尺九寸以上ニシテ各其勤務ニ應フ可キ者ヨリ之ヲ撰フ可シ

第五十六條 海軍兵ハ左ニ掲クル項目ノ順序ニ從ヒ之ヲ撰フ可シ其身幹水兵火夫ハ五尺以上ヲ定尺トス

- 第一項 航海學又ハ機關學卒業ノ者
- 第二項 西洋形船舶ニ乗組ノ者
- 第三項 汽車或ハ諸製造所等ニ於テ機關手又ハ火夫ノ業ニ從事スル者

第四項 現ニ前諸項ノ職業ニ從事セスト雖モ一箇年以上營テ之ニ從事セシ者

第五項 日本形五百石以上ノ船舶ニ乗組ノ者

第六項 日本形五百石未滿ノ船舶ニ乗組ノ者

第五十七條 海軍職工トシテ徵集スル者ハ身幹四尺九寸以上ニシテ其勤務ニ適當ノ者ヨリ之ヲ撰フ可シ

第五十八條 兵種ノ區別已ニ竣レハ府縣駐在官ハ府縣兵事課長ト共ニ壯丁名簿壯丁異動名簿人別表檢査表其他一切ノ書類ヲ取纏メ巡行ノ後備軍司令官ニ差出ス可シ

第八章 抽籤準備

第五十九條 營所後備軍司令官ハ府縣駐在官ノ報告ニ據リ一府縣ノ徵兵檢査事務完了ノ日時ヲ量リ巡回日割表第十三式ヲ作リ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ之ヲ鎮臺司令官ニ開申シ又其巡行ス可キ府縣廳及ヒ府縣駐在官ニ通牒ス可シ

第六十條 府縣廳ニ於テハ後備軍司令官ノ通牒ニ據リ其日時場所ヲ抽籤總代人ニ達

シ出頭セシム可シ

第六十一條 抽籤施行ニ先テ府縣兵事課長ハ徵兵署ニ於テ筆生ヲシテ籤丁名簿及ヒ籤札ヲ調製セシメ抽籤ノ席ニ備ヘ置キ又其府縣籤丁ノ總員及ヒ各兵種現役補充ノ徵員ヲ記載セシメ之ヲ抽籤場所ニ揭示ス可シ

第六十二條 籤丁名簿ハ籤丁ノ姓名住所ヲ記シ又籤札ハ左式ノ如ク厚紙ヲ凡ソ方三寸ニ切り之ヲ四ツ折ニシテ中分ヲ拈リ合格者ノ數ニ應シ調製ス可シ

近衛 (鎮臺)

籤札 (海軍)

何兵第何番

第六十三條 後備軍司令官ハ府縣巡行期日ニ至レハ徵兵署ヲ巡行シ壯丁名簿壯丁異動名簿其他諸書類ノ成規ニ適スルヤ否ヲ審査ノ上檢印シ又徵集猶豫ニ關スル書類

ハ府知事縣令ト商議シ成規ニ照シテ之ヲ處分ス可シ

第六十四條 後備軍司令官ハ抽籤施行ニ先テ徵兵令第四十一條ニ當ル先入兵同令第四十條ニ當ル入營延期ノ者及ヒ同令第十條ニ當ル志願兵ヲ調査シ現役兵編入ノ順序ニ從ヒ現役番號ヲ附ス可シ

第九章 抽籤

第六十五條 抽籤ハ後備軍司令官府知事縣令府縣駐在官府縣兵事課長郡區長及ヒ郡區駐在官列席シ徵集人員配當表ニ基キ近衛諸兵鎮臺諸兵及ヒ海軍諸兵ヲ區別シ雜卒職工亦其種類ヲ分テ之ヲ行フ可シ

第六十六條 抽籤總代人ノ抽キタル籤ヲ確證スル爲メ籤簿掛ハ其籤ヲ總代人ヨリ領取シ籤丁名簿姓名ノ頭ニ貼付シ徵兵署ノ封印ヲ押シ然ル後總代人ニ返付ス可シ

第六十七條 抽籤施行ノ際後備軍司令官ハ書記ヲシテ人別表ニ番號ヲ記入シ又籤簿第十四式ヲ調製セシム可シ

籤簿ハ兵種ヲ分テ當籤番號ノ順序ヲ以テ登記シ卷末ニ籤簿掛署名押印ス可シ但籤簿ハ別ニ一部ヲ作り府縣廳ニ備ヘ置ク可シ

第六十八條 抽籤施行ノ後徵兵署ニ於テハ人別表ニ據リ番號割符第十五式ヲ作り籤簿ニ引合セ徵兵署ノ封印ヲ押シ籤札ニ照シ抽籤總代人ニ交付ス可シ但抽籤總代人ハ受領證書第十六式ヲ差出ス可シ

第十章 簿冊表面調製

第六十九條 抽籤竣ルノ後徵兵署ニ於テ左ノ名簿ヲ作ル可シ

一 除役名簿

徵兵令第七條重罪ノ刑ニ處セラレタル者及ヒ第十六條廢疾不具者ニ當ル者ノ部類ヲ分テ第十七書式ニ據リ登記ス

二 徵集猶豫名簿

徵兵令第十七條徵集猶豫者第十八條事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫スル者第十九條官立府縣立學校ニ於テ修業一ケ年以

○改正徵兵事務條例

簿冊表面調製

上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ)及ヒ第二十一條(官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代
六ヶ年以内徵集ヲ猶豫ス)者ノ部類并ニ條目ヲ分テ第十八書式ニ據リ登記ス但同令第十八條第五
項(身体未タ定尺)及ヒ第六項(疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘザル者)ニ當ル者ハ年度ヲ分テ別
冊ニ登記ス

三 先入兵不參名簿

徵兵令第四十一條(先入兵)ニ當ル者ニシテ其年檢査ヲ受ケサル者ヲ第
十九書式ニ據リ登記ス

四 入營延期不參名簿

徵兵令第四十條(翌年廻)ニ當ル者ニシテ其年檢査ヲ受ケサル者ヲ第二十
書式ニ據リ登記ス

五 一年志願兵名簿

六 近衛現役兵名簿

七 鎮臺現役兵名簿

八 海軍現役兵名簿

九 近衛補充員名簿

十 鎮臺補充員名簿

十一 海軍補充員名簿

十二 現役兵檢査名簿

十三 補充員檢査名簿

右九名簿ハ番號ノ順序ニ從ヒ兵種及ヒ部類ヲ分テ入別表及ヒ檢査表ヲ
以テ編製ス

第七十條 前條ニ掲クル名簿ハ各二部_{檢査名簿}ハ一部_{ハ一部}ヲ作り卷末ニ後備軍司令官府知事縣令
署名押印シ一部ハ府縣廳ノ原簿トシ一部ハ府縣徵兵表ト共ニ後備軍司令官之ヲ領
收ス可シ

○改正徵兵事務條例

簿冊表面調製

第七十一條 抽籤竣ルノ後徵兵署ニ於テハ府縣徵兵表^{第二十書式}ヲ作り又師管內徵兵事務全ク竣レハ後備軍司令部ニ於テ府縣徵兵表ヲ以テ師管徵兵表ヲ編製シ第六十九條^(前條)ニ掲ケル所ノ諸名簿并ニ一師管ノ徵兵景況書及ヒ書類目錄ヲ添ヘ營所後備軍司令官ハ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ差出ス可シ

第七十二條 鎮臺司令官ハ前條ノ名簿諸書類領收ノ後師管徵兵表ヲ以テ軍管徵兵表ヲ編製シ徵兵景況書ヲ添ヘ五月十日迄ニ之ヲ陸軍省ニ送致シ近衛兵名簿海軍兵名簿ハ四月一日迄ニ直ニ近衛局或ハ海軍省ニ送致ス可シ

第七十三條 國民兵名簿ハ壯丁名簿調査ノ原簿タルヲ以テ之ヲ府縣廳ニ備ヘ置キ二十歳以下ノ者ノ年齢二十歳ニ至ル迄ハ身上ノ異動アル毎ニ訂正ヲ加フ可シ府縣廳ハ國民兵名簿ニ從ヒ毎年十二月一日調テ以テ國民兵人員表^{第二十書式}ヲ製シ翌年一月三十一日迄ニ之ヲ陸軍省及ヒ鎮臺ニ差出ス可シ

第十一章 現役兵編入順序

第七十四條 現役兵ニ編入ノ順序左ノ如シ

- 一 徵兵令第四十一條^(先入兵ニ當ル者)ニ當ル者
年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日日ノ順序ニ從フ
- 二 徵兵令第四十條^(翌年理シノ者)ニ當ル者
第一項ノ者ニ亞キ年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日日ノ順序ニ從フ
- 三 徵兵令第十條^(年齢二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ)ニ當ル者
^(現役ヲ志願スルコトヲ得ルコト)
第二項ノ者ニ亞キ年齢ノ順序又同年齡ノ者ハ誕生日日ノ順序ニ從フ
- 四 現役當籤ノ者
第三項ノ者ニ亞キ當籤番號ノ順序ニ從フ
- 五 補充當籤ノ者
步兵ニ在テハ軍管徵兵區内其他ハ師管徵兵區内ニ平均シ當籤番號ノ順序ニ從フ

第七十五條 歩兵ノ補充員不足シ師管徵兵區内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ營所後備軍司令官ハ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ上申シ鎮臺司令官ハ他ノ師管ヨリ之ヲ充實シ又他兵ノ補充員不足シ軍管内ニ於テ現役兵ヲ充實スル能ハサルトキハ鎮臺司令官ヨリ之ヲ陸軍省ニ開申ス可シ

第十二章 新兵入營前ノ扱

第七十六條 現役籤ニ當リタル者ハ入營ノ命ヲ待ツモノナルカ故五日間ニ往復スル能ハサル地ニ出ルヲ許サス

第七十七條 新兵ハ概テ毎年四月二十日ヨリ五月二十日迄ニ入營セシム可シ

第七十八條 新兵入營ノ日時及ヒ場所ハ毎年近衛局鎮臺又ハ鎮守府ヨリ府縣廳ニ通牒シ府縣廳ハ速ニ其旨ヲ入營ス可キ者ニ達セシメ左ノ手續ヲ爲ス可シ

- 一 鎮臺兵ハ其員數及ヒ入營地ニ應シ最寄チ分チ所要ノ附添人ヲ附シ入營地ノ後備軍司令部ニ出頭セシム可シ

- 二 近衛兵及ヒ海軍兵ハ一府縣ニ一人若クハ二人ノ附添人ヲ附シ近衛局或ハ鎮守府ニ出頭セシム可シ

第七十九條 新兵入營地迄ノ旅費并ニ附添人ノ旅費ハ定則ニ照準シ大藏省ヨリ支給ス可シ

第八十條 新兵入營ノ期ニ臨ミ父母ノ重病或ハ死没等ノ故ヲ以テ入營延期ヲ願フ者ハ戶主又ハ親族ノ者ヨリ事實ヲ詳記シ(其重病ハ醫師ノ診斷書^{第五書式}ヲ添ヘ)戶長郡區長與書證印シ郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ願出ルニ於テハ詮議ノ上十四日以内ノ延期ヲ許ス可シ

第八十一條 前條ノ延期ヲ許可セシトキハ府縣駐在官ハ其旨ヲ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ通牒ス可シ

第八十二條 入營延期ノ許可ヲ得タル者期滿ツレハ即日戶長ニ届出戶長ハ直ニ出發セシメ其旨ヲ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ届出可シ

第八十三條 新兵入營ノ期ニ臨ミ其身疾病犯罪等ニテ入營シ難キ旨戸長ニ届出ルト
 キハ戸長與書證印ヲ郡區長ヲ經テ近衛局鎮守府又ハ入營地ノ後備軍司令部ニ届出
 可シ其事故止ムトキ亦同シ尤モ疾病延ヒテ十五日以上ニ及フ者ハ最初届出ノ日ヨ
 リ三十日毎ニ届出其年九月一日ニ至ルモ事故尙止マサル者ハ本人所持ノ番號割符
 ヲ添ヘ同月十五日限リ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル
 可シ

第八十四條 新兵入營前甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戸寄留スル者ハ即日戸主ヨ
 リ甲府縣戸長ニ届出戸長ハ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ届出可シ又乙府縣ニ到着スルト
 キハ前同様ノ手續ヲ以テ番號割符ヲ添ヘ届出可シ然ルトキハ甲府縣ノ當籤番號ヲ
 存シ他日入營ノ時ニ至リ乙府縣同番號ノ者ニ次テ入營セシム可シ但本人ヨリ轉籍
 又ハ全戸寄留ノ旨ヲ甲乙府縣ノ郡區駐在官ニ届出可シ

第十三章 歸休歸省

第八十五條 徵兵令第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルハ抽籤以前該條項ニ當ル者ニ
 限ル

但戸主若クハ父兄等死没シ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ或ハ癡疾不具等トナリ本人
 ヲ要スルニアラサレハ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキハ詮議ノ上郷里ニ歸
 休セシメ又ハ第一豫備徵員ニ編入ス

抽籤後養子又ハ他家ノ相續人トナリ前項ノ事故ヲ生スルモ詮議ニ及ハス

第八十六條 前條但書ニ當ル者ハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ其事由ヲ詳記シ戸籍寫若ク
 ハ刑名宣告書寫若クハ醫師診斷書^{第五書式}并ニ同郡區内現役兵ノ戸主タル者二人以上
 タシテ事實ヲ證セシメ戸長郡區長與書證印ノ上郡區駐在官ヲ經テ府縣駐在官ニ差
 出シ該官ハ後備軍司令官ヲ經テ近衛局鎮守府或ハ鎮守府ニ申牒シ近衛局鎮守府ハ陸軍
 省ニ鎮守府ハ海軍省ニ開申ス可シ但癡疾不具等ノ者ハ陸海軍醫官ヲシテ地方醫師
 診斷書ノ當否ヲ判定セシメ又ハ府縣駐在官及ヒ其地陸海軍醫官ヲシテ其家ニ就キ

検査セシムルコトアル可シ

第八十七條 前條ノ者生兵或ハ二等若水兵若クハ二等若火夫ノ卒業後ナレハ郷里ニ歸休セシメ又卒業以前ナレハ之ヲ第一豫備徵員ニ編入ス

第八十八條 近衛兵ニシテ前條ニ據リ歸休セシメ又ハ第一豫備徵員ニ編入スル者ハ近衛局ヨリ本籍所管ノ鎮臺ニ通牒シ該鎮臺ノ管理ニ屬ス可シ

第八十九條 現役兵在營在艦中父母ノ重病或ハ死亡等ニテ歸省ヲ願フトキハ其戸主又ハ親族ノ者ヨリ事實ヲ詳記シ(其重病ハ醫師ノ診斷書第五書式ヲ添ヘ)戸長郡區長ノ

奥書證印ヲ以テ直ニ本人所屬ノ隊或ハ鎮守府ニ願出ルニ於テハ詮議ノ上往復ヲ除キ十四日以内ノ歸省ヲ許ス可シ尤モ旅費ハ自辨タル可シ但生兵二等若水兵二等若火夫ノ卒業ニ至ラス或ハ臨時ニ演習觀兵ノ舉アルトキ又ハ航海中ハ本條ノ限ニ在ラス

第十四章 補充員及豫備徵員

第九十條 補充員ハ臨時補缺ヲ除クノ外鎮臺ニ於テ毎年九月一日ノ現役兵缺員ニ應ジ概テ十月二十日ヨリ同月三十一日迄ニ入營スルモノトス但近衛兵海軍兵ニ在テ

ハ近衛局海軍省ヨリ所要ノ人員ヲ九月二十日迄ニ陸軍省ニ通牒シ陸軍省ハ之ヲ各軍管ニ賦課ス可シ

第九十一條 補充員入營ノ期ニ臨ミ疾病又ハ犯罪等ニテ入營スル能ハサル者ハ其事實ヲ詳記シ本人所持ノ番號割符ヲ添ヘ(疾病ハ醫師ノ診斷書第五書式ヲ添ヘ)速ニ戸長

ニ届出可シ戸長ハ奥書證印シ郡區長ヲ經テ府縣廳ニ差出ス可シ該廳ニ於テハ其次番號ノ者ヨリ順次ニ繰上ケ徵集人員ヲ充實シ入營セシメ其旨ヲ府縣駐在官ニ通牒ス可シ

第九十二條 前條ノ事故ニ據リ入營セサル者ハ翌年徵集ノ期ニ當リ郡區長ニ於テ其名簿ヲ作り府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第九十三條 補充員ニシテ入營ヲ命セラレタル者其入營迄ノ扱ハ總テ現役當籤者入

營前ノ扱ト異ナルコトナシ

第九十四條 補充員ハ十日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ出ルヲ許サス然レトモ已ムヲ得サル事故ヲ生シ其日限ヲ越ユル地ニ出テソコトヲ欲スル者ハ事實并ニ往先ヲ詳記シ戸長郡區長ノ與書證印ヲ受ケ郡區駐在官ニ出願ス可シ

第九十五條 補充員ニシテ現役ヲ志願スル者ハ本人ノ願書ニ親族連署シ戸長郡區長ノ與書證印ヲ受ケ郡區駐在官ニ願出ルトキハ詮議ノ上當籤番號ノ順序ニ拘ハラヌ補充員徵集同時之ヲ入營セシム可シ

第九十六條 補充員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ三日以内ニ戸長ニ届出戸長郡區長與書證印シ郡區駐在官ヲ經テ之ヲ府縣駐在官ニ届出可シ

第九十七條 補充員ニシテ甲府縣ヨリ乙府縣ニ轉籍又ハ全戸寄留スル者ハ第八十四條ノ例ニ據ル可シ

第九十八條 補充員ニシテ第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生シ徵集猶豫ヲ出願スル者

ハ第八十六條ノ手續ニ據リ主務省ニ開申ス可シ但主務省ニ於テハ詮議ノ上第一豫備徵員ニ編入ス可シ

第九十九條 第一豫備徵員身上ニ異動ヲ生スルトキハ戸主又ハ親族ノ者ヨリ三日以内ニ戸長ニ届出戸長ハ第九十六條ノ例ニ據リ之ヲ處分スヘシ

第一百條 第一豫備徵員ニシテ十五日間ニ往復スルコト能ハサル地ニ旅行セント欲スル者ハ其往先ヲ詳記シ戸長郡區長ヲ經テ郡區駐在官ニ届出テ然ル後旅行ス可シ但其届書ニハ旅行中徵集ノ命アルトキハ直ニ之ヲ通牒ス可キ者ノ姓名住所ヲ記入ス可シ

第一百一條 徵兵令第三十二條ニ據リ第二豫備徵員トナル者ハ其年四月二十日ニ至レハ別ニ命ナクシテ第二豫備徵員ニ編入セラレタル者ト心得可シ

第一百二條 第二豫備徵員年齢三十三歳トナル年ノ四月二十日ニ至レハ別ニ命ナクシテ國民兵役ニ編入セラレタル者ト心得可シ

第二百二條 補充員服役年期ノ計算ハ現役兵ト同シク四月二十日ヨリ起算シ第一豫備
徵員服役年期ノ計算ハ其編入ス可キ年ノ四月二十日ヨリ起算ス可シ但第八十七條
ニ當リ第一豫備徵員トナル者ハ其入營年ノ四月二十日ヨリ起算ス

第十五章 一年志願兵

第二百三條 徵兵令第十一條ニ據リ一個年間現役ニ服センコトヲ志願スル者ハ毎年九
月一日ヨリ同月十五日迄ニ其願書 第二十
三書式ヲ戶長ニ差出ス可シ戶長ハ之ニ與書證印
シ部區長ヲ經テ十月一日限リ府縣廳ニ差出シ府縣廳ヨリ之ヲ徵兵署ニ送ル可シ

第二百四條 志願者ハ當分ノ内各自ノ志望ニ由リ步兵看護卒及ヒ看馬卒ノ内ニ就キ其
種類ヲ撰ヒ出願スルコトヲ得

第二百五條 食料被服等ノ自辨金ハ一名金壹百圓ニシテ其現品ハ官ヨリ之ヲ支給ス但
自辨金ハ二月一日迄ニ府縣廳ヲ經テ領臺ニ納ム可シ

徵兵令第十一條第二項ニ據リ若干月ニシテ歸休ヲ命ジタル者ニハ殘金ヲ返付ス可

第二百六條 志願兵入營前ノ扱ハ總テ現役當籤者ト異ナルコトナシ

入營後第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生セシトキハ第八十六條及ヒ第八十七條ヲ適
用ス可シ

第二百七條 步兵志願者ハ各軍管ニ之ヲ纏メ別段ノ教育ヲ受ケシメ看護卒看馬卒志願
者ハ各軍管ノ其部ニ屬シ教育ヲ受ケシム可シ

第二百八條 志願兵現役一個年ヲ終レハ六個年間豫備役ニ服ス可シ

第二百九條 志願兵中品行方正勤務勉勵ニシテ技藝ニ熟達シ下士ノ任ニ堪フ可キ者ニ
ハ其適任證書ヲ付與ス可シ

又教育上拔群ノ結果ヲ得タル者ハ豫備役下士ニ任シ士官適任證書ヲ付與ス可シ
第一百十條 志願兵檢査所往復及ヒ入營歸郷ノ旅費ハ總テ自辨トス

第十六章 臨時徵兵事務

○改正徵兵事務條例 臨時徵兵事務

百三十四

第百十一條 戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキハ左ニ掲クル項目ノ順序ニ從ヒ徵集ス可シ

一 徵兵令第四十條^(翌年回シ)ノ事故止ミタル者

二 補充員

三 第一豫備徵員

四 徵兵令第十七條^(徵集猶豫)ニ當リ徵集ヲ猶豫セシ者

五 第二豫備徵員

第百十二條 豫備徵員ハ年次ヲ逐ヒ服役日尙淺キ者ヨリ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集シ又徵兵令第十七條^(徵集猶豫)ニ當リ徵集ヲ猶豫セシ者ハ項目及ヒ當籤番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ徵集ス

第百十三條 第百十一條第一項第二項第三項ニ掲クル者ヲ徵集スルノ手續ハ平常補充員ヲ徵集スルニ同シ

第百十四條 第百十一條第四項第五項ニ掲クル者ヲ徵集スルトキハ府縣廳ニ於テ臨時徵兵署ヲ設ケ徵集ノ準備ヲ爲ス可シ

第百十五條 臨時徵兵署ニ於テハ検査所并ニ巡回日割ヲ定メ後備軍司令官及ヒ府知事縣令ニ開申ス可シ但府縣廳ニ於テハ戶長ヲシテ壯丁ヲ引繼メ指定ノ日時場所ニ出頭セシム可シ

第百十六條 検査所巡行ノ諸員ハ府縣駐在官醫官府縣兵事課長地方醫員及ヒ筆生トス但郡區長郡區駐在官ハ検査所ニ出頭シ同所ノ事務ヲ補助ス可シ

第百十七條 身體検査竣ルノ後府縣駐在官ハ臨時徵兵署ニ於テ府知事縣令ト商議シ徵兵令第十七條^(徵集猶豫)ニ當ル者ハ各項目ニ番號ヲ分テ第二豫備徵員ハ各年度ニ番號ヲ分テ抽籤ヲ施行ス可シ

第百十八條 一府縣ノ臨時徵兵事務全ク竣ルノ後府縣駐在官ハ人別表検査表ヲ點檢シ兵種及ヒ部類ヲ分テ人別表ハ臨時徵員明細名簿トシ検査表ハ臨時徵員検査名簿

トシ鑑簿ト共ニ營所後備軍司令官ニ差出シ該官ハ之を一師管ニ取纏メ兵種ヲ分チ人員表ヲ製シ名簿ト共ニ鎮臺後備軍司令官ヲ經テ鎮臺司令官ニ差出シ鎮臺司令官ハ其軍管人員表ヲ製シ之ヲ陸軍省ニ開申ス可シ

第百十九條 臨時徵兵事務ハ本章ニ掲クル諸條ヲ除クノ外定期徵兵事務ニ準シ便宜處分ス可シ

第百二十條 國民兵ヲ徵集スルノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第十七章 雜則

第百二十一條 徵兵令第十條(年齢二十歳ニ滿タスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ現役ヲ志願スルヲ得)ニ據リ現役志願ノ者ハ其願書第二十四式ニ戶長郡區長ノ與書證印ヲ受ケ徵兵検査所ニ出願ス可シ但検査所ニ往復ノ旅費ハ合格者ニ限り官給ス

第百二十二條 徵兵令第十七條(徵集猶豫ノ項目)第十八條(事故ノ存スル間)第十九條(教正ノ職)乃至第二項(官立大學校及ヒ之ニ準)及ヒ第十九條(官立府縣立學校ニ於テ修業一箇年以上ノ課程ヲ卒業タル生徒ハ六箇年以内徵集ヲ猶豫スル)ニ當ル者年齡滿二十七歳以下ニシテ現役ヲ志願スルトキハ前條ノ手續ヲ以テ徵兵検査所ニ出願ス可シ但旅費ハ前條ニ同シ

第百二十三條 徵兵令第十一條(年齢十七歳以上滿二十七歳以下ニシテ官立府縣立學校ノ卒業證書ヲ所持シ服役中食料被服等ノ費用ヲ自辨スル者ハ願ニヨリ一箇年間陸軍現役ニ及ヒ第十八條第二項(官立府縣立學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者)ノ卒業證書ハ學期二箇年服セシム)及ヒ第十八條第二項(官立府縣立學校ノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者)ノ卒業證書ハ學期二箇年以上ノ學校ニ於テ二箇年以上ノ課程ヲ卒リタル證書ニ限

第百二十四條 徵兵令第十七條ニ當ル者ハ徵集スルトキハ其項目ノ順序ニ從フ可シ
第百二十五條 徵兵令第十七條第一項(兄弟全時ニ徵集ニ應スル者ノ内)及ヒ第二項(現役中服役高メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ)兄弟ハ同戶籍中ノ實兄弟ニ限ル
第百二十六條 徵兵令第十七條第一項ノ兄弟同時徵集ニ當リ検査ノ上共ニ合格スルトキハ情願ニ據リ一人ヲ猶豫ス可シ

前項ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ検査ヲ受ケント欲スルトキハ各自届出ヲ爲ス年ノ八月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戶長ニ願出本籍戶長ニ届出可シ

第二百二十七條 武官并ニ陸海軍生徒ノ兄弟ハ徵兵令第十七條第一項第二項(前百二十
五條ノ分註
シノ如)ニ據ルノ限ニ在ラス

第二百二十八條 豫備兵後備兵召集中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免
役シタル者ノ兄弟徵集ニ當ルトキハ徵兵令第十七條第二項ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス
可シ

第二百二十九條 徵兵令第十七條第一項ノ現役兵ノ兄或ハ弟一人ハ徵集ヲ猶豫スヘシ
ト雖モ現役中ノ者其年四月現役滿期或ハ脱走中又ハ歸營償勤中ナルトキハ徵集ニ
應ス可シ

第二百三十條 徵兵令第十七條(徵集猶
豫ノ下)第十八條(事故ノ存スル間徵
集ヲ猶豫スル下)第十九條(官立府縣立學校ニ
於テ修業一個年以
上ノ課程ヲ終リタル生徒ハ)及ヒ第二十一條(官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術
六ヶ年以内徵集ヲ猶豫ス)及ヒ第二十一條(官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラサル技術
六ヶ年以内徵集ヲ猶豫ス)當リタル者七個年間ニ其資格ヲ失ヒタルトキハ徵集スト雖モ更ニ徵兵令第十七條
(徵集猶豫ノ
項目中ノ者)及ヒ第十八條第七項(學術修業ノ爲メ外
國ニ寄留スル者)ニ當ル者并ニ陸海軍生徒トナル者ハ

徵集猶豫ニ屬ス可シ

第二百三十一條 各自届出後即チ九月十六日以後ニ於テ徵兵令第十八條第一項(教正ノ
職ニア
者)第二項(官立府縣立學校ノ卒業證書ヲ所持ス
ル者ニシテ官立公立學校教員タル者)第三項(官立大學校及ヒ之ニ準
スル官立學校本科生徒)第四項(陸海軍生徒
海
軍生徒
夫除ク)第十九條(前百三十條
ノ註ノ如シ)及ヒ第二十一條(同百三十條
ノ註ノ如シ)ニ當ルモ徵集猶豫ノ限ニ在
ラスト雖モ翌年四月十一日以後九月十五日迄ニ該條項ノ名稱ヲ得タル者ハ徵集猶
豫ニ屬ス可シ

第二百三十二條 徵兵令第十八條第三項(前百三十一
條ノ註ノ如シ)ノ生徒ニシテ二個年以上ノ課程ヲ
卒リタル者ハ同令第三十一條(補充員ニシテ其期限
内徵集ノ命ナキ者)ニ據リ第一豫備徵員ニ編入ス可キヲ
以テ徵兵検査時限ニ至レハ郡區長ヨリ其學校ニ通牒シ最寄ノ徵兵検査所ニ出頭セ
シメ身體ノ検査ヲ受ケシム可シ

第二百三十三條 徵兵令第十八條第二項(前百三十一條
ノ註ノ如シ)ニ掲ケタル官立大學校ニ準スル官
立學校ハ左ノ如シ

一 工部大學校

二 農商務省駒場札幌農學校

三 司法省法學校

第三百三十四條 徵兵令第十八條第一項第二項第三項第四項(第一項第二項第三項第四項 正前第三十一條ノ註ノ如シ)第

十九條(前第三十一條ノ註ノ如シ)第二十條(豫備後備兵復習點呼ノ第五項 爲メ召集ヲ免ヌルヲテ除ク)及ヒ第二十一條(前第三十條ノ註ノ如シ)ニ

當ル者其事故止ミタルトキハ學校長若クハ所屬長ヨリ本人所管ノ府縣廳ニ通牒ス可シ

第三百三十五條 徵兵令第十九條ニ掲グル修業一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒トハ

該校ニ於テ其課程ヲ卒リタル者ノミニ限ラス他ノ學校ヨリ入學シ一個年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ニ編入セラレタル者亦該條ニ據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第三百三十六條 官吏判任以上及ヒ戶長ハ徵兵令第二十條第一項(官吏判任以上及ヒ戶長)ニ據リ召集ヲ猶豫ス上雖モ準官吏ハ該條項ニ據リ召集ヲ猶豫スルノ限ニ在ラス

第三百二十七條 附籍戶主及ヒ其嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵兵令第二十二條第一項(附籍戶主及ヒ

附籍戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫)ニ據リ徵集スト雖モ其戶主徵兵各自屆出期限即チ九月十五日以前ニ

一戶ヲ設立スルトキハ徵兵令第十七條第三項(戶主年齡六十歲以上ノ者ノ嗣子又ハ承祖ノ孫)及ヒ第五項(戶主)ニ

據リ徵集猶豫ニ屬ス可シ但分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戶主ニシテ更ニ附籍シタル後別ニ一戶ヲ設立スルモ本條ノ限ニ在ラス

第三百二十八條 徵兵令第二十二條第四項(分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戶主及ヒ其戶主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫)ノ嗣子或ハ

承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ其戶主分家又ハ絶家廢家再興後廢疾不具等トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第三百二十九條 徵兵令第二十二條第二項(廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非

若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫)ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集スト雖モ各自屆出チ爲ス年ノ九月

十五日迄ニ前嗣子承祖ノ孫若クハ相續人(全戶籍中ノ者)廢疾又ハ不具等トナリ一家ノ生計

ヲ營ムコト能ハザル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第四百十條 徵兵令第二十二條第二項(前百三十九條ノ註ノ如シ)ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其

第六項(第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ主癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ)ニ據リ戶主トナリタル者及ヒ其第七項(年齡六十歳未満ノ者癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ

スシテ戶主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戶主)ノ戶主ハ徵集スト雖モ其徵集ニ應ス可キ年ノ一月迄ニ前戶主(全戶跡ヲ繼キタル戶主)

者ノ已ニ六十歳ニ至ルカ又各自届出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ癩疾又ハ不具等トナ

リ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊シキトキ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルト

キハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第四百十一條 徵兵令第十七條第三項(戶主年齡滿六十歳以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫)第二十二條第三項(年齡六

滿ノ戶主癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルトキ)及ヒ第七

項(前百四十條)ニ掲クル六十歳又同令第二十二條第五項(嗣子承祖ノ孫失踪メ五ヶ年ヲ經サ

ル者ノ跡ヲ繼キタル戶主)ニ掲クル五個年ハ徵集ニ應ス可キ年ノ一月ヲ以

テ分界ト爲ス可シ

第四百十二條 徵兵令第十八條第五項第六項ニ當ル者ハ事故ノ存スル間徵集猶豫ニ

屬スト雖モ毎年検査所ニ出頭シ身體ノ検査ヲ受ク可シ

第四百十三條 徵兵検査呼出又ハ入營ニ際スルトキハ民事訴訟ノ爲メ裁判所ノ召喚

アリト雖モ検査又ハ入營日時ヲ延期セス

第四百十四條 戰時若シハ事變ニ際シテハ第八十條第八十五條但書及ヒ第八十九條

ニ當ル事故生スト雖モ詮議ニ及ハス

第四百十五條 徵兵令第十七條第四項(戶主癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫)及ヒ同令第

二十二條(第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルニ限ニアラサル項目)ノ諸項ニ當ル癩疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ

營ムコト能ハサル者ハ徵兵検査所ニ呼出シ検査ス可シ但起居自在ナラサル疾患ニ

シテ車駕等ヲ用フルモ出頭スル能ハサル者ハ府縣駐在官醫官及ヒ府縣兵事課長其

家ニ就テ検査スルコトアル可シ

第四百四十六條 前條ノ者他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ検査ヲ受ケント欲スルトキハ適齡者ノ各自届出ヲ爲ス年ノ八月十五日迄ニ其旨ヲ寄留地戸長ニ願出本籍戸長ニ届出可シ

第四百四十七條 徵兵署閉鎖後徵兵令第三十六條(徵兵ノ異動ヲ生シタル時ハ事由ヲ届出ツル)ニ當ル者ハ翌年之ヲ徵集ス可シ

第四百四十八條 徵兵令第四十一條ニ當ル者其年疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營スルコト能ハスシテ九月一日ニ至ルモ事故尙止マサルトキハ翌年更ニ検査ヲ遂ケ仍ホ先入兵トシテ徵集ス可シ

第四百四十九條 徵兵令第四十一條ニ當ル者ニシテ爾後同令第十七條第十八條第四項(徒海軍工夫)第五項(身体未タ定尺ニ滿タサル者)第六項(疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者)第八項(禁錮以上ニ該ルヘキ刑事被告人トナリ裁判未決ノ者)第九項(公權停止中ノ者)及ヒ第十九條(官立府縣立學校ニ於テ修業一四年以上ノ科)ニ該當スト雖モ徵集猶豫ノ限ニ在ラズ

第四百五十條 徵兵既行ノ地在籍ノ者ニシテ沖繩縣及ヒ北海道ノ内徵兵未行ノ地ニ轉籍シ更ニ他ノ府縣ニ寄留スル者ハ寄留地ニ於テ各自届出ヲ爲シ其本籍ノ者ト同シシ徵集ニ應ス可シ

徵兵未行ノ地ニ單身寄留ノ者ハ本籍地ニ歸リ徵集ニ應ス可シト雖モ全戸寄留ノ者ハ徵集猶豫ニ屬ス可シ

第四百五十一條 徵兵令第二十四條(國民兵入)第二十五條(徵兵通辭)第二十六條(徵兵異動)

第三十九條(疾病或ハ犯罪等ニテ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ其事由ヲ詳記シ其疾病ニ際シハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ即日戸長ニ届出ル)ノ届出ヲ怠リ又ハ兵役

ヲ免レノガ爲メ身体ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐偽ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡潜匿シタル者又ハ正當ノ故ナシ検査所ニ參會セサル者アルトキハ普通治罪法ノ手續ニ據リ之ヲ告發ス可シ

第四百五十二條 徵兵署又ハ徵兵検査所ニ差出ス可キ願書ハ三通届書ハ二通徵兵署宛ニテ差出ス可シ

第十八章 附則

第五百五十三條 明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタル者ニシテ舊徵兵令第二十八條(國民軍ノ外兵役ヲ免ス)ニ當リ國民軍ノ外免役ニ屬スル者新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七年検査時限内ニ在テ名稱ヲ罷メタルトキハ更ニ徵集ニ應セシメ其第七年検査時限ヲ經過スル者ハ舊徵兵令ニテ處分セシ儘之ヲ名簿ニ据ヘ置ク可シ

第五百五十四條 明治十四年一月ヨリ明治十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタル者ニシテ舊徵兵令第二十九條(平時ニ於テ兵役ヲ免ス)第三十條(平時ニ於テ一ケ年ヲ限リ徵集ヲ猶豫スヘシ)第三十一條(官省院使吏御用掛御雇等ハ之ヲ免役セスト雖モ餘人ヲ以テ代フ可カラザル)及ヒ第三十四條(一ケ年間ヲ限リ徵集ヲ奉スル者ノ如キハ特ニ太政官ニ具狀シテ裁決ヲ請フヘシ)及ヒ第三十四條(一ケ年間ヲ限リ徵及翌年回シニスヘキ者次年ニ至リ猶該條ニ當ル時ハ又之ヲ猶豫若クハ翌年回シニスヘシ)ニ當リ平時免役而テ終ニ常備年期ノ第三年検査時限ニ至リ猶該條ニ當ル時ハ平時ニ於テ之ヲ免役スヘシ)ニ當リ平時免役又ハ徵集猶豫ニ屬スル者新徵兵令ニ照シ常備年期ノ第七年検査時限内ニ在テ名稱ヲ罷メタルトキハ更ニ徵集ニ應セシメ其第七年検査時限ヲ經過スル者ハ新徵兵令

第三十二條ニ據リ第二豫備徵員ト爲ス可シ

第五百五十五條 現今豫備軍服役中ノ者ハ最初豫備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ四個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備兵役ニ服セシム但定期ニ在ラヌシテ臨時豫備軍ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ四個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後後備軍役ニ服セシム

第五百五十六條 現今後備軍服役中ノ者ハ最初後備軍ニ編入セシ年ノ四月二十日ヨリ起算シ五個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民軍役ニ服セシム但定期ニ在ラヌシテ臨時後備軍ニ編入セシ者ハ其編入セシ日ヨリ起算シ五個年ノ役ニ服セシメ滿期ノ後國民兵役ニ服セシム

第五百五十七條 舊徵兵令第三十六條(平時免役ニ屬シ第四十九條及第五十一條但書ニ當ル者ハ第一豫備徵兵ト爲シ云々)ニ據リ第一豫備徵兵服役中ニシテ年齢二十七歳ヲ經過セシ者及ヒ現ニ第二豫備徵兵服役中ノ者ハ新徵兵令第三十二條(第十七條ニ當ル者ニシテ其年徵集ノ命ナキ者第十八條第二十一條ニ當ル者ニシテ七個年間其事故ノ存スル者及第一豫備徵員ヲ終リタル者年齢滿三十二歳)

迄ハ之ヲ徵ニ 孫備徵員トスニ據リ第二豫軍徵員ト爲ス可シ

第百五十八條

新徵兵令第二十二條ノ諸項ニ當ル者ト雖モ其事柄ノ明治六年一月十日即チ徵兵令創定以前ニ係ル者ハ該條項ヲ以テ處分スルノ限ニ在ラス

第百五十九條

明治十六年第十二月迄ニ年齡滿二十歳トナリタル者ニシテ舊徵兵令

第六十條

(國民軍 屆出方)第六十一條(徵兵各自 屆出方)及ヒ舊徵兵事務條例第百八十條(徵集猶豫ノ者 及翌年回ノ者 事故止ム時)ノ屆出ヲ怠タル者

明治十七年九月十五日迄ニ屆出サルトキハ新徵兵令

第四十三條

(國民兵入籍屆徵兵適齡屆徵兵異動屆疾病或犯罪ノ者事由屆等)ノ屆出ヲ爲サル者ハ三回以上三十回以下ノ罰金ニ處ス

ニ據リ處分ス可シ

第十九章 書式并諸表

第一書式

國民兵入籍屆書

國民兵入籍御届

郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓

年月日生 名

右私或ハ私何男(養嗣子)承祖ノ孫等ニテ本年何月十七歳ニ相成候間此段及御届候也

郡(區)町(村)番地住

族及職業

戶主 姓

年月日生 名 印

年月日

郡(區)町(村)戶長

姓名

殿

前書之通相違無之候也

年月日

戶長

姓名印

第二書式

徵兵適齡屆書

徵兵適齡御届

郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓

年月日生名

除役及徵集猶豫ニ當ルヘキ事故

アル者ハ茲ニ記載ス例ヘハ

重懲役十年(父六十五歳 祖父七十歳 嗣子 承祖ノ孫)

右私或ハ私何男(弟孫甥又ハ附籍等)ニテ本年何月二十歳ニ相成候間此段及

御届候也

郡(區)町(村)番地住

族及職業

戶主 姓

年月日生名印

年月日

郡(區)町(村)戶長

姓名 殿

前書之通相違無之候也

年月日

戶長

姓名印

第三書式

徵兵異動屆書

徵兵異動御届

郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓

年月日生名

右明治何年徵兵適齡ノトキ兄某現役中(郡村番地何某養嗣子等)ニテ徵集猶
豫相成候處年月日現役滿期ニ相成(該家離縁私何男弟甥附籍ニ復シ)候間
此段及御届候也

郡(區)町(村)番地住

族及職業

戶主 姓

年月日生名印

年月日

郡(區)町(村)戶長

姓名 殿

前書之通相違無之候也

年月日

戶長

姓名印

本人戶主ナレハ本人ヨリ事由ヲ詳記シ届出可シ

第四書式 其一 事由書

事由書

郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓

年月日生名

右先代^實父(母)某儀ハ來何年一月六十何歳ト相成且祖父亡某ノ死跡ヲ繼キタル戶主ニテ私儀ハ何年月日同人ノ隠居跡ヲ繼キタル戶主ニ相違無御座候也

郡(區)町(村)番地住

族及職業

戶主 姓

年月日生名印

年月日

郡(區)町(村)戶長

姓名 殿

○改正徵兵事務條例 書式

前書之通相違無之候也

年月日

戸長

姓名印

此書式ハ一例ヲ示スモノナレハ實際ニ就キ調査ニ要スル事由ヲ記詳スヘキモノトス其二書式亦同シ

第四書式 其二 事由書

事由書

郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓

年月日生名

右ハ私^實嗣子ニ候處私儀來何年一月六十何歲何ヶ月ト相成且先代^實父(母)亡某ノ死跡ヲ繼キタル戸主ニ相違無御座候也

郡(區)町(村)番地住

族及職業

戸主 姓

年月日生名 印

年月日

郡(區)町(村)戸長

姓名 殿

○改正徵兵事務條例 書式

前書之通相違無之候也

年月日

戸長

姓名印

第五書式 其一 醫師診斷書

診斷書

府(縣)郡(區)町(村)番地住

族及職業

姓名

年月日生

右ハ天資強實或ハ何々ニシテ嘗テ病ニ罹リシコナシ或ハ何病ニ罹ル云々何年何月何日來何症ヲ發シ爾來何々ノ症候現症候ヲ精密ニ記載スヘシアルヲ以テ何症ト診斷シ何々劑ヲ與エ何々ノ法ヲ施シ己ニ何過ヲ經過セシ處何々症増加スルニ由リ或ハ何々ノ症ヲ遺スニ由リ遂ニ危篤ニ陥ル者或ハ所詮治癒ス可ラサル者ト及診斷候也

年月日

府(縣)郡(區)町(村)番地住
主任醫 姓名 印

右診斷書調査候處不都合無之候也

年月日

府(縣)病院長 病院ナキ地方ハ內務省開業免狀所持醫
姓名 印

先天不具ノ者ニシテ治療ヲ加ヘサル者ハ其景況部分ヲ明細ニ記載スヘシ病院長ニ於テ醫師ノ診斷書上其病症及治療法等審按シ成規ニ適合スルモノト見認ルトキハ奥書押印スヘシ 其二書式亦效之

第五書式 其二 醫師診斷書

診斷書

府(縣)郡(區)町(村)番地住
族及職業

姓

年月日生 名

右ハ何年何月何日山林樵伐ノ際或ハ何々ノ時何部ヲ打撲シ何骨ヲ折斷ス或ハ何ノ部ニ何々ノ傷ヲ被リ即日何術及何綁帶ヲ施シ或ハ何々法ヲ施シ何々劑ヲ與ヘ何々ノ症ハ治癒スルヲ得ルモ何々症ヲ遺シ或ハ何々ノ症ヲ繼發スルニ由リ所詮治癒ス可ヲサル者或ハ爾後何ヶ月ヲ經サレハ治癒セサル者ト及診斷候也

年月日

府(縣)郡(區)町(村)番地住
主任醫 姓名 印

右診斷書調査候處不都合無之候也

年月日

府(縣)病院長 病院ナキ地方ハ内務省開業免狀所持醫
 姓名印

第六書式 徵兵人別表

明 治 何 年 徵 兵 人 別									
嗣子	妻	養母	養父	母	父	祖母	祖父	族業	身 尺 度 幹
長男 何某	何某女 某	何某女 某	何某女 某	何某女 某	何某女 某	何某女 某	何某女 某	府(縣)國郡(區)町(村)番地住族及職業	某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)(附籍)本人戸主ナレハ
同	同	同	同	同	同	同	同	名	某
同	同	同	同	同	同	同	同	誕生年月日	何年何月
同	同	同	同	同	同	同	同	誕生年齢	何年何月
備							宗	氏	何
一會テ刑罰ヲ受ケシコトナシ或ハ年月日何罰何々ニ處セラル							門	同	何
一戸主或ハ本人家屋ヲ有ス							神	國郡(區)町(村)	何
一地租何圓ヲ納ム							社	何	何
							社	何	何

○改正徵兵事務條例 書式

表		兄弟	兄弟	考	
女	男	姉	妹	何	何
子	子	妹	兄	某	某
		長	二	同	同
		女	男	同	同
			何	同	同
			某	同	同

○産國ト現今ノ管轄府縣ノ異ナル者ハ表首國郡區町村産ト記スル上ニ其府縣ヲ加ヘ又寄留地ノ徵集ニ應スル者ハ府縣及ヒ國郡區町村住ト記スルノ位置ニ寄留地ノ府縣國郡區町村番地ヲ記シテ其下ニ寄留ト書シ而シテ産國及ヒ原籍住地ノ府縣國郡區町村番地(産國ハ番地ヲ除ク)ヲ表首國郡區町村産ト記スルニ及ハス

○族職業ノ區畫ニハ華士族何(平民何)ト記ス但女ハ戶主ニ非サレハ族職業ヲ記スルニ及ハス

○父母亡スル者ハ名ノ下ニ亡ト記シ族職業誕生年齡等ノ區畫ニハ○ヲ記スヘシ祖父母養父母亦之ニ同シ

○分家又ハ絶家ヲ再興ノ者ハ生家ノ祖父母ヲ記シ尙生家ト肩書スヘシ

○年齢ハ本人徵集ニ應スヘキ年ノ一月ヲ以テ計算スヘシ

第七書式 其一 壯丁名簿

用紙郡區款名ノ美濃野紙以下第八書式其三ニ至ル亦同シ

徵集之部		某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)本人戶主ナレハ戶主ト記スヘシ
何村	士族商	何 某
		年月日生
	何町 平民農	同
	定期届出ヲ怠ル者	同
	同	同
	同	同
	弟何某ト同時徵集ニ當ル者	同
	同	同
	同	同
	父廢疾又ハ不具ノ者	同

○改正徵兵事務條例 書式

○改正徴兵事務條例 書式

百七十一〇

第八書式 其一 壯丁異動名簿

異動徴集之部

十八年徴兵

某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥)
本人戸主ナレハ
戸主ト記スヘシ

何村 士族商

何 某

郡區町村某ノ養嗣子ニテ徴集猶豫ノ處
年月日離縁

年月日生

同

何町 平民雜業

同

戸主ニテ徴集猶豫ノ處年月日戸主テ
罷メ届出テ忘ル

同

十九年徴兵

同

同

十九年徴兵検査ノ節身幹四尺七寸

同

以下倣之

計何人

○改正徵兵事務條例 書式

百七十二

第八書式 其二 壯丁異動名簿

異動入營延期之部	
十八年徵兵	
何村 平民農	某何男(養子)(兄)(弟)(叔)(甥) <small>本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ</small>
十八年入營ノ節病氣十九年検査ノ節同斷	何 某
十九年徵兵	年月日生
同	
同	
十九年入營ノ節病氣	同
以下倣之	同
計 何人	

(編者曰裏面ハ唯主引
ノミナレハ省略ス)

第八書式 其三 壯丁異動名簿

異動先入兵ノ部	
十八年徵兵	
何村 平民農	某何男(養子)(兄)(弟)(伯)(叔)(甥) <small>本人戸主ナレハ 戸主ト記スヘシ</small>
十八年徵兵検査ノ節失踪十九年同斷	何 某
十九年徵兵	年月日生
同	
同	
十九年徵兵検査ノ節無故參會セズ	同
以下倣之	同
計 何人	

(編者曰裏面ハ唯主引
ノミナレハ省略ス)

○改正徵兵事務條例 書式

百七十三

○改正徵兵事務條例 書式

第九書式

國民兵名簿

用紙美濃紙

百七十四

姓名	住所	出生年	族職業	備考	姓名	住所	出生年	族職業	備考
某何男(養子)兄(弟)伯(叔)甥(姪)何某	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
國民兵名簿									
何府縣									

姓名	住所	出生年	族職業	備考	姓名	住所	出生年	族職業	備考

○改正徵兵事務條例 書式

百七十五

第十書式

徵集人員配當表

明治何年何軍管															師管第				
近衛現役					鎮臺現役					看 護 卒	職 工	計	職 工	計					
步 兵	騎 兵	砲 兵	工 兵	計	步 兵	騎 兵	砲 兵	工 兵	計							職 工	計	職 工	計
																			一
																			第
																			二
																			計

徵集人員配當表												看 護 卒	職 工	計	職 工	計	考 備
海軍現役			水兵			火夫			職工								
計	職 工	計	職 工	計	職 工	計	職 工	計	職 工	計	職 工						